

研究主題 地域の学習環境を生かした学習指導の改善・充実
- 小規模・少人数の特色を生かして -

《抄 録》

本研究は、西部山間・島しょ地区の学習環境を生かした学習指導に関する過去の研究の実践事例を分析し、その結果を基に小規模・少人数の特色を生かした学習指導の在り方と具体的な方法を示すことを目的として、研究を進めてきた。

本研究の要点は以下の通りである。

(1) 過去の研究集録に掲載された198の実践事例を分析した。その結果、西部山間・島しょ地区では、「豊かな自然」や「地域の密接な人間関係」といった豊かな学習環境を生かして、体験的な学習活動を積極的に取り入れた教育活動が行われており、児童・生徒の学習に対する意欲や興味・関心を高め、主体的な態度を育成する学習活動が推進されてきたことが分かった。

しかし、その一方で、思考力や判断力などの育成に言及した事例が少なかったことも分かった。

(2) 過去の実践事例の分析結果を基に、小規模・少人数を生かして思考力・判断力・表現力などを育成するための考え方を示し、それを生かした学習指導案の様式を考案した。また、この様式を用いて、小学校・中学校・高等学校について計8つの学習指導の構想例を作成した。

(3) 調査委員6名による検証授業を実践し、考案した学習指導案の様式を活用することが、思考力・判断力・表現力を育成するための支援・指導の方法を構想する上で有効であることを確かめた。

(4) この研究を通して、小規模・少人数のよさを生かすためには学習指導の工夫が重要であることが明らかとなった。今後、構想例に示した小規模・少人数を生かした具体的な学習指導の方法の有効性について、実践の中で検証していくとともに、小規模・少人数を生かした具体的な学習指導の方法をさらに開発していく必要がある。

この研究の成果は、小規模・少人数を生かして思考力・判断力・表現力を育成するための手がかりとして、指導計画を作成したり、学習活動を構想したりする際に活用することができる。

目 次

研究の基本的な考え方	-----	95	
1 研究主題設定の理由			
2 研究のねらいと方法			
研究の内容	-----	96	
1 西部山間・島しょ地区の学校規模・学級規模の実態			
2 過去の事例に見る西部山間・島しょ地区の教育	-----	97	
(1) 実践事例の分析方法			
(2) 分析結果とその考察			
3 構想例の作成	-----	101	
(1) 過去の実践の分析から導き出された考え方			
(2) 教育活動充実のための学習指導の在り方	-----	102	
(3) 構想例作成に向けて			
(4) 構想例	-----	104	
小学校 第2学年	生活	一人一人の子どもの発想を尊重しながら工夫する力や表現する力を育成する構想例	
小学校 第2・3学年	算数	合同学習のよさを生かして、数学的な考え方・数理的に処理する能力を育成する構想例	
小学校 第3学年	社会	地域に残る年中行事に対する自分の考えをまとめ、表現する力を育成する構想例	
小学校 第3学年	算数	習熟の状況に応じた学習を取り入れ、個に応じた指導・支援の充実を図り、数学的な考え方・数理的に処理する能力を育成する構想例	
小学校 第5学年	道徳	一人一人が自分の思いを意欲的に表現できる場を設定することにより、道徳的实践力を育成する構想例	
小学校 第6学年	国語	個別の課題を多様な方法で調査し、報告文を書くことを通して表現力を育成する構想例	
中学校 第3学年	音楽	一人一人の計画に基づき活動を選択させ、豊かな表現力を育成する構想例	
高等学校 第2学年	外国語	地域紹介を中心とした英語ニュース番組の制作を通して、身近な人々とコミュニケーションできる力を育成する構想例	
4 調査委員による授業実践と考察	-----	120	
島 しょ	小学校 第3学年	総合的な学習の時間	地域の身近な人々とのかかわりや具体的な体験活動・調査活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る事例
西部 山間	中学校 第3学年	音楽	小グループで歌唱や器楽に取り組むことにより、豊かな表現力を育成する事例
研究のまとめ	-----	126	
1 研究の成果			
2 今後の課題			
巻末資料			

研究の基本的な考え方

1 研究主題設定の理由

社会は、国際化、高度情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子化・高齢化等、様々な面で大きく変化している。これからの学校教育には、このような変化に対応できる「生きる力」をはぐくんでいくことが求められている。

このことは西部山間・島しょ地区の教育にとっても大きな課題である。しかし、これらの地区には、児童・生徒に「生きる力」をはぐくむ教育を推進するための条件が豊富にあり、豊かな自然や多様な伝統文化などの教育資源が存在している。地域や保護者との密接な人間関係も残っている。西部山間・島しょ地区では以前からこれらの教育環境を活用し、様々な体験活動を取り入れるなど、教育活動の充実を目指した試みが続けられてきており、多くの成果をあげてきた。

小・中学校では来年度から、高等学校では平成15年度から新学習指導要領が実施され、完全学校週5日制の下で新しい教育が進められようとしている。一方、授業時数の削減に伴い、これまで以上に基礎学力の定着が各学校に求められてきている。このような状況の下、平成12年12月の教育改革国民会議の最終報告や平成13年1月の21世紀教育新生プランの提言等、「わかる授業で基礎学力を向上させる」ことを目指した少人数による学習指導が目目されるようになってきた。平成13年3月には義務教育諸学校標準法が改正され、公立小・中学校において、国が定める学級編制の標準（40人）を下回る特例的基準を都道府県教育委員会の判断で設定することが可能になった。

西部山間・島しょ地区の学校教育には小規模・少人数であるという大きな特色がある。小規模・少人数による教育活動の長所について、平成4年度の都立教育研究所の研究「少人数学級における学習指導の工夫」は、「個別指導の充実を図ることが可能である」「教材・教具が有効に活用でき、体験活動を十分に取り入れることができる」「学習形態を容易に変化させることができる」などとまとめている。

本研究は、西部山間・島しょ地区における地域の学習環境を生かした学習指導の工夫を過去の実践事例の分析を通して明らかにするとともに、小規模・少人数の長所を生かした学習指導の在り方とその具体的な方法を示すことを目的として進めることとした。

2 研究のねらいと方法

本研究は、地域の学習環境、特に小規模・少人数を生かした学習指導の在り方についての考え方と具体的な進め方を提言することをねらいとする。主な研究の内容と方法は以下の通りである。

- (1) 西部山間・島しょ地区の教育に関する過去の実践事例を収集・分析する。それらをデータ化して分析し、小規模・少人数の特色を生かした学習指導の在り方や考え方をまとめる。
- (2) まとめた考え方にに基づき、小規模・少人数を生かした学習指導の具体的な進め方を学習指導の構想例として作成する。
- (3) 西部山間・島しょ地区の調査委員6名がそれぞれ、小規模・少人数を生かした学習指導計画を作成し、実践する。その結果の記録を分析し、検証する。

研究の内容

1 西部山間・島しょ地区の学校規模・学級規模の実態

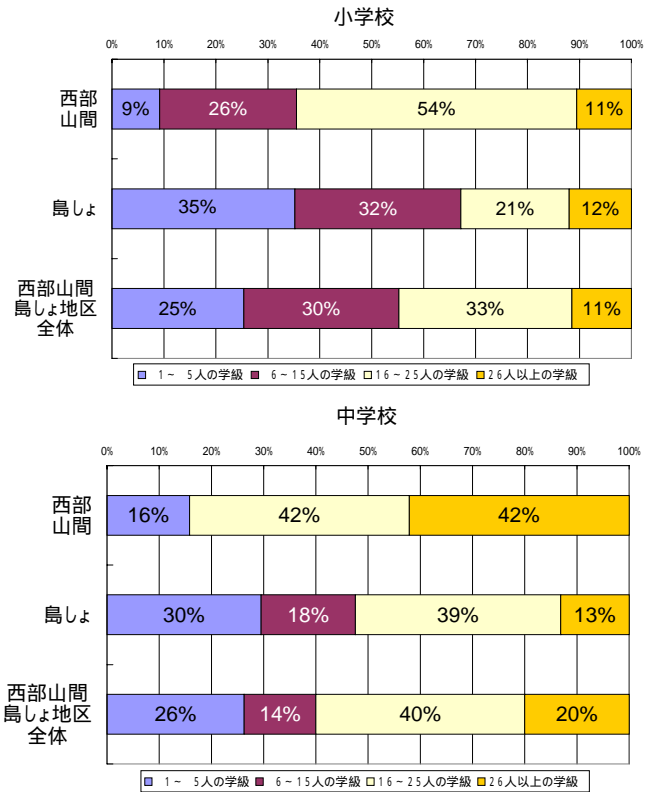
右のグラフは、平成13年度東京都公立学校一覧を基に西部山間・島しょ地区の小・中学校の学級規模についてまとめたものである。

児童・生徒数25人以下の学級の割合をみると、小学校では西部山間・島しょ地区ともに90%近く、中学校では西部山間地区は58%、島しょ地区は87%となっている。

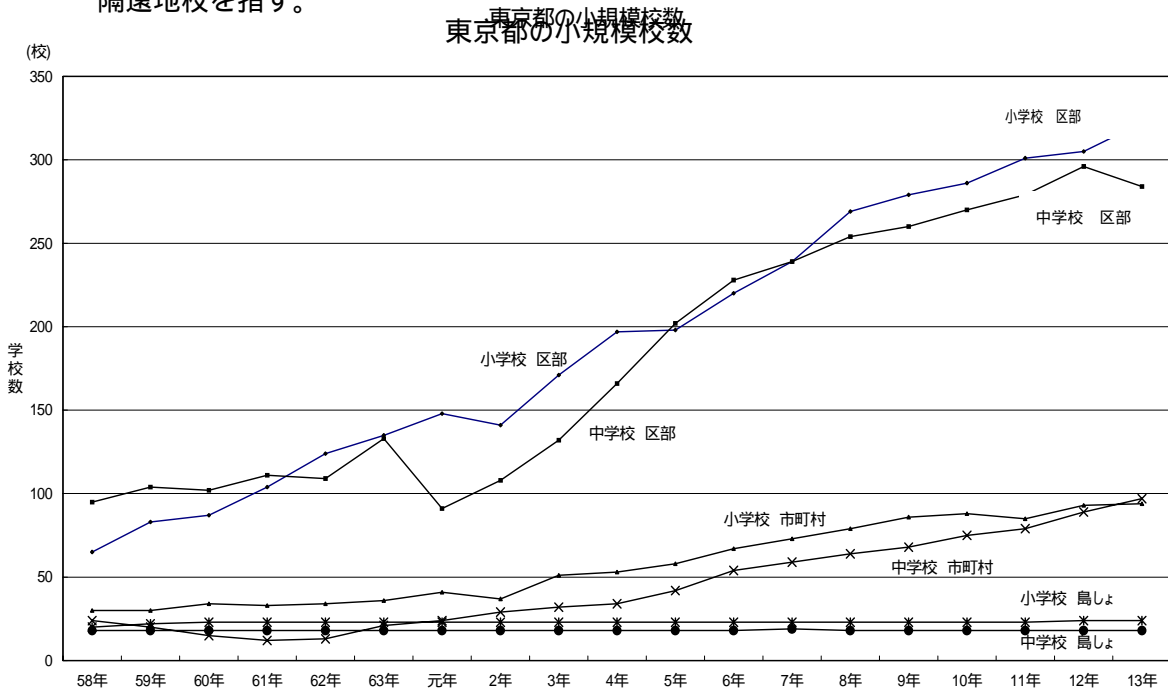
学校教育法施行規則第17条は「小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする」と定めている。これに基づき、小学校・中学校ともに11学級以下を小規模校として集計し、過去18年間の推移をまとめたのが下のグラフである。これをみると小規模校は年々増加傾向にある。全国的に少子化が進んでいる現状を考えると、さらにこの傾向が続いていくと予想される。「小規模・少人数」のよさを生かした教育の在り方を検討することが、今後ますます重要になると考えられる。

本研究の「西部山間・島しょ地区」の学校は、西多摩地区及び島しょ地区のへき地校・隔遠地校を指す。

【西部山間・島しょ地区における小・中学校の学級規模】



平成13年度東京都公立学校一覧より作成



2 過去の事例に見る西部山間・島しょ地区の教育

(1) 実践事例の分析方法

本研究では、平成元年以降現在までの研究集録を基に、西部山間・島しょ地区の学校において学習指導がどのような視点で工夫されているかを分析した。分析した事例数は198事例である。(内訳 小学校131、中学校62、高等学校5事例。巻末資料参照)

分析の方法は以下のア～ウで行った。

ア 過去の研究における各実践事例を、(2)の ~ の各項目に示した観点から分析し、カードを作成する。(巻末資料参照)

イ 分析カードを用いて、分析の観点となった各項目ごとに記述内容をカテゴリー化する。

ウ 分析の観点となった各項目ごとに、カテゴリーの出現頻度を集計し、分析する。

なお、以下に示すグラフは、その集計結果に基づいて作成したものであり、事例数の少ない高等学校については省いてある。

(2) 分析結果とその考察

豊かな教育環境として取り上げられている内容

各事例において、西部山間地区や島しょ地区の豊かな教育環境としてどのようなことを取り上げているかを単元設定の理由などの記述から抽出・分析した。

その結果、学習素材となり得る「豊かな自然」「文化」「産業」などそれぞれの地域の豊かな環境にかかわる内容と、学習を進めるときに活用できる「地域の密接な人間関係」など、地域の人材にかかわる内容との2つが大きな要素として存在していることが分かった。

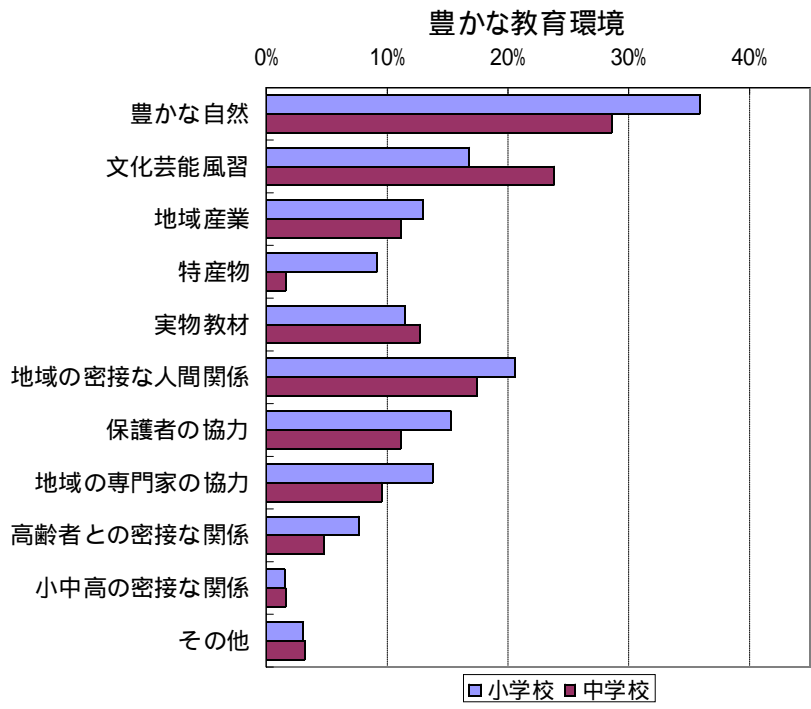
地域の人材にかかわる

内容には、「保護者の協力」「地域の専門家の協力」「高齢者との密接な関係」のように具体的にとらえたものと、「地域の密接な人間関係」のようにやや抽象的にとらえているものがある。

校種による違いを比較すると、小学校では「豊かな自然」が中学校を上回り、逆に中学校では「文化芸能風習」を取り上げた事例が小学校を上回っている。また、高等学校では「加配教員」「小中高の密接な関係」を豊かな教育環境ととらえている事例が見られた。

小規模・少人数の長所としてとらえられている内容

小規模・少人数であることの長所を事例ではどのようにとらえているか分析した。



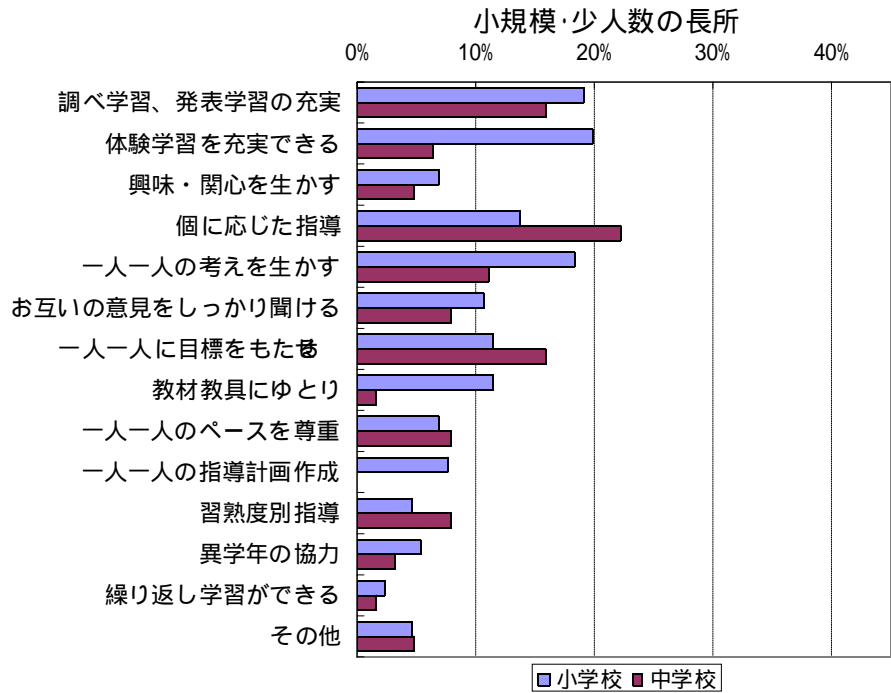
その結果、「個に応じた指導の充実」に関連する内容と「体験学習の充実」に関連する内容の大きく2つの要素でとらえていることが分かった。

「一人一人の考えを生かすことができる」「一人一人に目標をもたせることができる」などは2つの要素のうち、「個に応じた指導の充実」の具体的な記述として

とらえることができる。グラフでは、「一人一人に目標をもたせる」「一人一人の指導計画作成」といったように具体的に記述されている事例以外は、「個に応じた指導」という表現で一括して処理した。

校種別に見ると、「一人一人の考えを生かす」といった学習の個別化を意識する割合は小学校が高く、「一人一人に目標をもたせる」「習熟度別指導」など能力に応じた指導については中学校が小学校を上回っている。

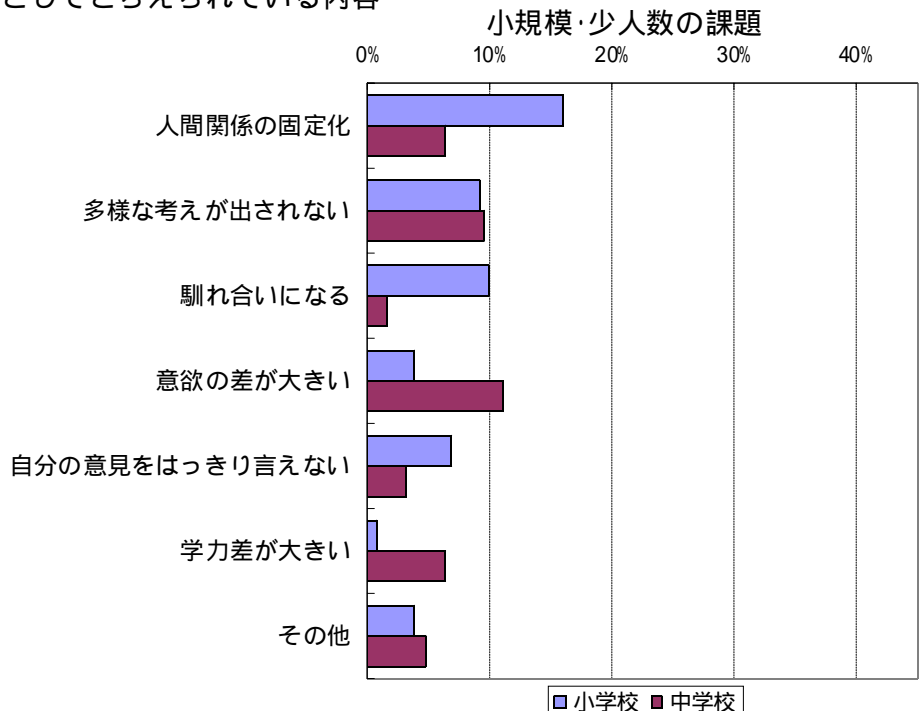
「体験学習の充実」については小学校が中学校を大きく上回っているが、「調べ学習、発表学習の充実」についてはそれほど大きな差はない。



小規模・少人数の課題としてとらえられている内容

学習環境の特性について書かれた記述から、小規模・少人数による課題にふれた部分を抽出して分析した。この項目についての記述は、他の項目に比べると記述が少なく、多いカテゴリーでも分析した事例の2割以下である。

内容的には大きく3つの要素があることを読み取ることができる。一つ目は「人間関係の固定化」「馴れ合いに

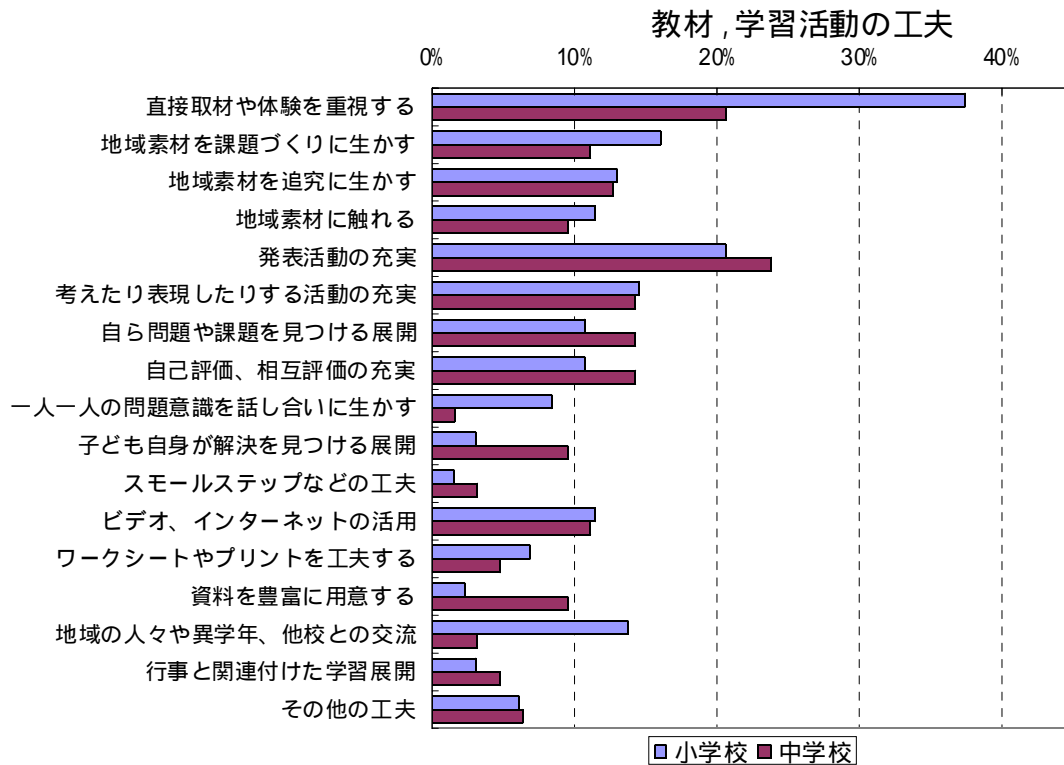


なる」といった人間関係に関連した記述、二つ目は「多様な考えが出されない」「自分の意見をはっきり言えない」といった表現力の不足に関連した記述、三つ目は「意欲の差が大きい」「学力差が大きい」といった個人差に着目した内容である。

校種別に比較すると、小学校では人間関係に関連した内容を取り上げた事例の割合が高く、中学校では個人差に着目した内容の割合が高くなっている。また、表現力の不足に関連した内容は校種を越えて課題としてとらえられていることを読み取ることができる。

教材や学習活動の工夫

小規模・少人数や地域の環境を生かしてどのように教材や学習活動の工夫をしているかを分析した。その結果、以下のように地域教材を「課題づくり」「追究」などの場面で活用していることが分かった。



学習活動としては、「直接取材や体験を重視する」が最も多く、次に多かったのは「発表活動の充実」であるが、その他に「考えたり表現したりする活動」「自ら問題や課題を見つける展開」などの問題解決的な活動を工夫していることが分かった。さらに、「自己評価、相互評価の充実」「ビデオ、インターネットの活用」「地域の人々や異学年、他校との交流」などの指導法の工夫も見られる。

このグラフから西部山間・島しょ地区では、地域素材や体験活動を取り入れて学習に対する関心、意欲を高め、問題解決的な活動を通して学習を展開しようとしていることが分かる。また、自己評価、相互評価を工夫することなどで学力を定着させようと努力している姿を見ることができる。さらに、課題となっている表現力の不足や固定した人間関係を克服するため、発表活動を充実させたり交流活動を取り入れたりしていることも読み取ることができる。

学習形態の状況

各事例においてどのような学習形態を取り入れているか分析した。

その結果、一斉授業を基調にしつつ、グループ学習や個別指導を組み合わせた事例が多いことが分かった。

校種別に比較すると、中学校で個別指導を取り入れている割合が高いことが注目される。その他、TTを取り入れたり、ペア学習を行ったりするなどの学習形態の工夫がされているが、その割合はいずれも高いとは言えない。

児童・生徒の変容や学習の成果のとりえ方

各事例で述べられている児童・生徒の変容や学習の成果の内容を分析したところ、「意欲」「関心」「実感」などの情意的な面での成果について述べたものと、「表現力」「発表力」などの能力の向上について述べているものの2つに大きく分けることができることが分かった。

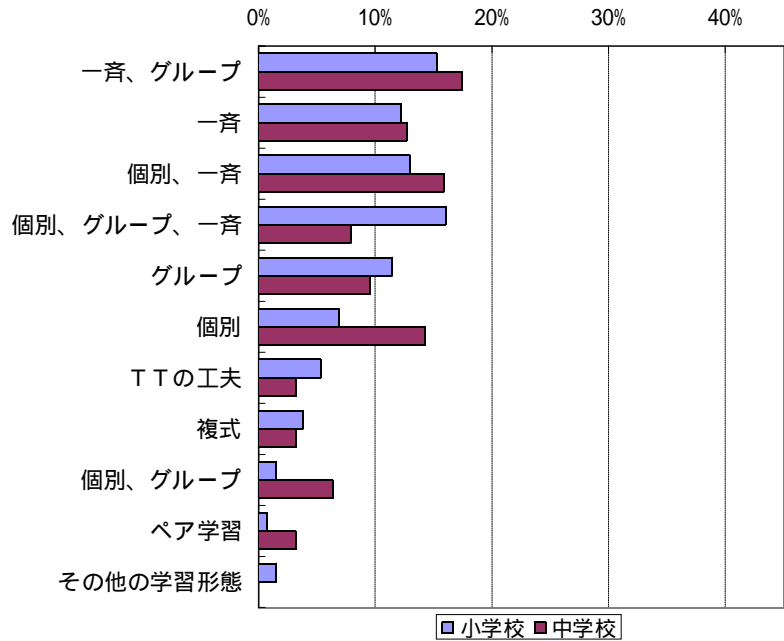
この2つを比較すると、情意的な面での向上について述べたものに比べ、能力の向上について述べている事例の割合は低い。その理由の一つに、具体的な能力の育成を目指した教育活動の在り方が事例において明確にされていないことがあると考えられる。

情意面で大きな成果をあげたと述べている事例が多いことから、具体的な能力の向上に

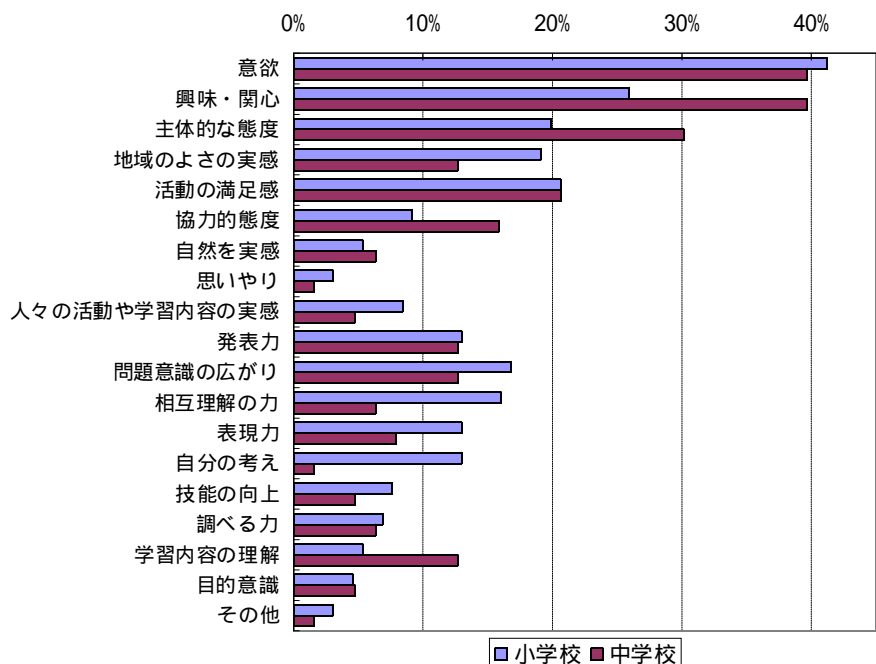
についても同様の成果を期待することができる。しかし、そのためには学習指導の一層の改善と児童・生徒の変容を具体的にとらえる評価の工夫が必要である。

情意面での向上を校種別に比較すると、意欲については大きな差は見られないが「興味・関心」「主体的な態度」「協力的態度」では小学校に比べて中学校で割合が高くなっている。具体的な能力の向上について見ると、「問題意識の広がり」「相互理解の力」「表現力」「自分の考えをもつ」は小学校の割合が高く、「学習内容の理解」は中学校の割合が高くなっている。

学習形態の工夫



児童・生徒の変容、成果



3 構想例の作成

(1) 過去の実践の分析から導き出された考え方

地域素材を活用するとともに、小規模・少人数のよさを生かして思考力・判断力などの育成を図る。

西部山間・島しょ地区においては、「豊かな自然」や「地域の密接な人間関係」といった豊かな教育環境を生かして、「地域素材を学習に生かす」中で「直接取材や体験を重視する」「地域の人々や異学年、他校との交流」「発表活動の充実」などの体験的な学習活動を重視した教育活動が行われている。

その結果、学習に対する「意欲」「興味・関心」が高まり、「地域のよさ」「人々の活動や学習内容」「自然」などが「実感」され、「主体的な態度」が育っていると報告されている。しかし、「学習内容の理解」や「表現力」「発表力」「調べる力」の定着などを成果として記述している事例は少ない。また、「思考力」「判断力」の育成に言及した事例もほとんど見られない。

一方、「個に応じた指導」ができる、「一人一人の考えを生かす」ことができるを小規模・少人数のよさとして挙げながら、その記述内容は抽象的な表現が多く、小規模・少人数のよさを生かした具体的な指導方法を読み取ることのできる事例は多くない。

そこで、課題把握、追究、まとめといった一連の学習活動の中で、小規模・少人数のよさを生かして「一人一人の指導計画の作成」「習熟度別指導」などの具体的な指導法を取り入れ、意図的に「思考力」や「判断力」などの能力を育成していくことが大切であると考えた。

地域の人材や密接な人間関係を活用し、豊かな表現力の育成を図る。

西部山間・島しょ地区においては、小規模・少人数の課題として、「自分の意見をはっきり言えない」「多様な考えが出されない」などが挙げられている。一方、「調べ学習、発表学習の充実」「体験学習の充実」が可能であることを地域のよさとして挙げている。

また、豊かな教育環境として「地域の密接な人間関係」「地域の専門家の協力」「高齢者、保護者の協力」などが高い割合で挙げられている。さらに、教材、学習活動の工夫のグラフからは、「地域の人々や異学年、他校との交流」「発表活動の充実」などが可能であることを読み取ることができる。

そこで、西部山間・島しょ地区の課題の一つとして挙げられている「自分の意見をはっきり言えない」「多様な考えが出されない」、さらに「人間関係の固定化」といった状況の克服を目指し、学習内容に応じて「一斉学習」や「グループ学習」「個別学習」などの学習形態を効果的に組み合わせるとともに、「地域の人材や密接な人間関係」の活用方法の工夫を重ね、意図的に基礎的な能力の一つである豊かな「表現力」の育成を図っていくことが大切であると考えた。

(2) 教育活動充実のための学習指導の在り方

過去の分析から導き出された考え方に基づき、西部山間・島しょ地区の教育活動をさらに充実させるための学習指導の在り方を次のようにまとめた。

小規模・少人数の特色を生かして問題解決学習を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

問題解決学習の学習過程を大まかに「問題把握 追究 まとめ」ととらえ、それぞれの段階における小規模・少人数という学習環境だからこそ重視すべき視点を以下のように整理した。

ア 問題把握の場面で

- 一人一人の興味・関心・能力等に応じた多様な問題設定をする。

イ 追究の場面で

- 一人一人の課題意識を把握し、きめ細かな支援・指導を行う。
- 一人一人の課題に応じて、多様な体験や調査活動などを行う。
- 個別の追究、小集団での話し合い等、多様な学習形態を取り入れる。

ウ まとめの場面で

- 一人一人の課題意識、個性・能力に応じた多様な表現活動を取り入れる。
- 他学年や保護者、地域の人などへ発信・表現する活動を取り入れる。

(3) 構想例作成に向けて

構想例作成の考え方

前項では、西部山間・島しょ地区の教育活動充実のための学習指導の在り方を「小規模・少人数の特色を生かして問題解決学習を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る」ことが大切であると示した。「小規模・少人数のよさ」として、学習内容に応じて「一斉学習」や「グループ学習」「個別学習」などの学習形態が取りやすいこと、一人一人の課題に応じた多様な「体験・調査活動」が行えること、「一人一人の指導計画の作成」などにより、一人一人の思い・願いや課題を把握し、きめ細かい支援・指導が可能であることが挙げられる。これらの特色を問題解決学習（問題把握 追究 まとめ）の中に生かしながら、思考力・判断力・表現力を確実に伸ばしていくことが大切である。

この考えを授業に生かすためには、学習指導計画の中に以上のことを明確に位置付けることが大切である。特に、小規模・少人数の特色を生かした問題解決学習の諸活動がどのような思考力・判断力・表現力の育成に結び付くのかを明らかにする工夫が求められている。

以上の点を踏まえて学習指導案の様式を考案し、この様式を用いて構想例を作成した。

構想例の見方

構想例には、最初に対象校種、学年、教科、想定人数を示した。次に構想例の特色を簡潔に示し、過去の実践の分析から導き出された考え方を生かした教育活動に向けての具体的な工夫点を示した。さらに、構想例の単元やそのねらい、使用する資料等を示し、具体的な学習指導計画を提示した。学習指導計画表の項目については以下の通りである。

学習の流れ

学習過程を「問題把握 追究 まとめ」という大まかな過程でとらえ、それぞれの過程における児童・生徒の学習活動、学習内容を示した。

小規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫

構想例作成の考え方を踏まえ、「学習形態」「体験・調査活動」「個に応じた支援・指導」の項目を設け、小規模・少人数を生かした学習形態の工夫、多様な体験・調査活動の導入、一人一人の児童・生徒の実態に応じた支援・指導の手だてを明確にした。

育成したい能力（評価の視点）

「育成したい能力」として「思考力・判断力」と「表現力」に着目し、これらを具体的な児童・生徒の姿でとらえて記入することとした。この項目に示された内容は評価の視点としてとらえることができる。

構想例 中学校 第3学年 音楽 想定生徒数 10名～15名程度

小規模・少人数を生かして

一人一人の計画に基づき活動を選択させ、豊かな表現力を育成する構想例

本構想例の校種、学年、教科、想定児童・生徒数を示す

本構想例を読み取るポイントを示す

1 本構想例の具体的な工夫

一人一人の思いや考えを生かし、グループ編制を含めて自らが計画を立て、自由に活動を選択できるようにした。
生徒が活動の見通しをもつことができるようにするとともに、教師が一人一人の活動を把握し、支

2 指導案

- (1) 題材名 「自分たちの『八丈太鼓』を創作しよう」
- (2) ねらい
 - ・楽曲を創作する手順を理解し、その楽しさを味わうことができる。
 - ・楽器や演奏法の違いなどの特徴を感じ取ることができる。
- (3) 資料等

本構想例の具体的な工夫を簡潔に示す

学習の流れを主な活動と内容で示す

場面に応じた学習形態とその際の活動内容を示す

個に応じた支援・指導を場面に応じ、具体的に示す

(4) 指導計画 7時間扱い

	学習の流れ	小規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫			育成したい能力（評価の視点）	
		学習形態	体験・調査活動	個に応じた支援・指導	思考力・判断力	表現力
問題把握	八丈太鼓の基本的打ち方を知る ・地域の八丈太鼓奏者の演奏を聴く ・自由に太鼓をたたく	一斉学習 ・演奏を聴く 個別学習 ・太鼓をたたく	・八丈太鼓奏者の演奏を聴くことで基本の打ち方をイメージする	・聴く時の観点をあらかじめ示しておく	・八丈太鼓の基本打ちをイメージする	・自分なりのイメージで太鼓をたたく
	自分たちの「八丈太鼓」を創作しよう					
	少人数のグループ（2～4人）を作り、グループで練習計画を立てる	グループ活動 ・話し合い ・立案		・練習のイメージがわかず、計画が立てられない	・練習計画に基づき、具体的な練習方法を	・自分がどのような思いを太鼓で表現するのかを

思考力・判断力・表現力の育成に有効な体験・調査活動を具体的に示す

育成したい能力を具体的な児童・生徒の姿で示す

(4) 構想例

構想例 小学校 第2学年 生活 想定児童数 20名程度

小規模・少人数を生かして
一人一人の子ども発想を尊重しながら工夫する力や表現する力を育成する構想例

1 本構想例の具体的な工夫

子どもたちが工夫して楽器作りをするために、楽器作りカードを使って子どものイメージを把握し、個別の支援ができるようにした。

子ども一人一人の発想を最大限に生かしながら楽器を作ることができるようにするために、身の回りにある貝殻やサンゴなどの自然の素材を自由に使えるようにした。

保護者や地域の方に作り方を教えていただいたり、演奏を聴いてもらったりすることで子どもや地域との結び付きを深めるようにした。

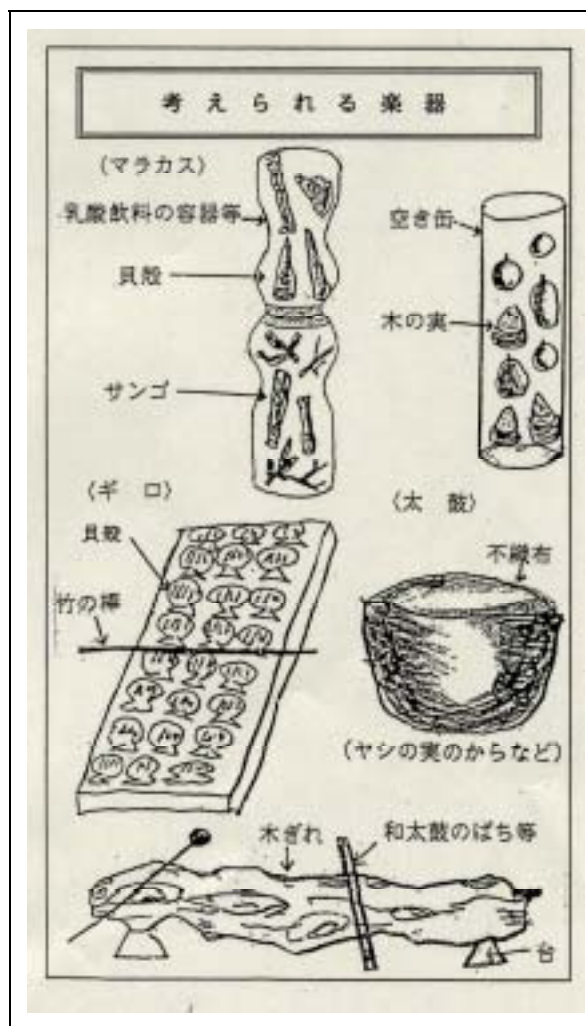
2 指導案

(1) 単元名 「いろいろな楽器をつくって音楽会をしよう」

(2) ねらい ・地域にある自然の素材を使い、工夫して楽器を作ることができる。

・自分たちで作った楽器を音楽に合わせて鳴らし、みんなで楽しむことができる。

(3) 資料等



【がっき作りカード】 2年 組 名前()

3. 作るがっきの絵

がっきを作ろう

1. 作るがっき

2. よういするもの

がっきを作ってみて

がっき作りカード活用の効果と留意点

ある程度見通しをもって楽器を制作できるように、必要な材料や楽器の絵などを記入しイメージをはっきりさせて活動に取り組ませる。

楽器を作るとき、事前にカードに目を通し必要な材料や道具を用意しておき支援の方法を考えておく。

(4) 指導計画 11時間扱い

	学習の流れ	少人数・小規模を生かした学習活動・指導の工夫		育成したい能力 (評価の視点)		
		学習形態	体験・調査活動	個に応じた支援・指導	思考力・判断力	表現力
問 題 把 握	はっぱぶえを鳴らしてみよう					
	1 地域の方の葉っぱ笛の演奏を聴く	一斉学習				・聴いた印象をもとに感想を発表し合う
	2 葉っぱ笛の鳴らし方や作り方を教えてもらう	一斉学習 個別学習	・葉っぱ笛の仕組みや、鳴らし方を知る ・葉っぱ笛を作り鳴らす	・地域の方にも協力していただき、一人一人が鳴らせるまで作り方や鳴らし方の支援・指導を行う	・笛の作り方を自分なりに考え、工夫する	・作った笛で音を出してみる
3 音楽に合わせて葉っぱ笛を鳴らす (1~3を通して2時間)	一斉学習 ・音楽に合わせて楽しむ	音楽を流しておいて子どもが自然に音楽に合わせて葉っぱ笛を吹けるようにする		・こわれたら作り直し、いい音が出るように工夫する	・音楽に合わせて楽しく葉っぱ笛を鳴らす	
追 究	いろいろなざいりょうをつかってがっきを作ってみよう					
	はっぱぶえのほかに、はまべや山などにあるもので何かがっきを作れないかな					
	4 作りたい楽器を考える (1時間)	一斉学習 グループ学習	・作りたい楽器のイメージを楽器作りカードに書く	・代表的な楽器を見本として用意する	・自分の楽器を作るために必要な身の回りにある材料を考える	・作りたい楽器のイメージをカードに絵で表す
5 葉っぱや貝殻、砂、木の实など身近な自然の素材から楽器を作る (4時間)	グループ学習 個別学習	・身の回りから必要な材料を集める ・楽器作りカードにある楽器を作る	・海岸や校庭、裏庭から集めた貝殻や木ぎれ、木の实など身の回りにある素材を自由に使えるようにする ・事前に楽器作りカードに目を通し必要な材料や道具を用意し必要に応じて提供する	・自分と友達の楽器を比べ、材料や形によって音の違いがあることに気付く ・材料の特性を生かして楽器を作るまでを順序立てて考える	・集めた材料から自分のイメージを生かして楽器を作る ・自分の作った楽器を友達に紹介する ・楽器を作った感想をカードに書く	
6 グループごとに楽器を鳴らす (2時間)	グループ学習	・自分たちのグループで歌いたい歌と楽器を合わせてみる	・保護者の方等に協力していただき、子どもの実態に応じて個別指導をする	・歌のどの場面で自分が作った楽器を鳴らしたらよいか考える	・歌に合わせて楽器を鳴らす	
ま と め	自分たちで作ったがっきでおんがく会をひらいて楽しもう					
	7 感謝の気持ちをこめて招待状を作る (1時間)	一斉学習 個別学習 ・渡す相手を決める	・招待状を作る	・招待状を作るときの内容や言葉づかいについて助言する	・相手に喜びや感謝の気持ちが伝わるように考える	・招待状に感謝の気持ちを表す
8 お世話になった方や1年生を招いて音楽会をする (1時間)	一斉学習 グループ学習	・歌や音楽に合わせて作った楽器で鳴らす	・楽しい音楽会になるように一人一人の役割を明確にする	・自分たちのよさや他のグループの良さを見つけ合う	・楽しさを身体や言葉で表す	

構想例 小学校 第2・3学年 算数 想定児童数 10名～15名程度

小規模・少人数を生かして
 合同学習のよさを生かして、数学的な考え方・数理的に処理する能力を育成する構想例

1 本構想例の具体的な工夫

第2学年は習熟を図る場面、第3学年は前学年での既習事項を振り返る場面として合同学習の形態を導入し、系統性を意識して学習できるようにした。

【第2学年にとって、この合同学習のもつ意義】

- ・数のしくみについての理解を深め、多様な見方や考え方の深化を図ることができる。

【第3学年にとって、この合同学習のもつ意義】

- ・基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることができる。
 - ・2年生への支援を通して、思考の深まりと表現力の向上を図ることができる。
- 数についての感覚を豊かにするため、具体物を用いた算数的活動の時間を十分に取るようにした。TTを活用し、一人一人の児童の能力や特性等に配慮した指導を行いやすくした。

2 指導案

(1) 単元名(第2学年)

「4けたの数」

(2) ねらい(第2学年)

- ・4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方や大小・順序、相対的な大きさについて理解する

(3) 単元指導計画 (、 は合同学習)

学習のねらい(第2学年)	時
・千という位を知り、二千という数を理解する	1
・4位数の読み方と書き方を理解する	2
・空位のある4位数の読み方と書き方を理解する	3
・4位数の数構成を理解する ・数を読んだり、数字を書いたりする	4
・数の相対的な大きさについて理解する	5
・4位数の相対的な大きさについての理解を深める	6
・千が10個集まると一万になることを知る	7
・4位数の順序、系列を理解する ・4位数の大小を比較する	8
・4位数までについての、数の大小や順序について理解を深める	9
・既習事項を生かし、身近な生活の中から、一万を探することができる	10

(1) 単元名(第3学年)

「大きい数のしくみ」

(2) ねらい(第3学年)

- ・8位数までの数構成を理解し、相対的な大きさや10倍、100倍、10で割った大きさを見付ける

(3) 単元指導計画

時	学習のねらい(第3学年)
1	・4位数の相対的な大きさについて確認する
2	・一万の位までの数と、その構成・読み方・表し方を理解する
3	・千万の位までの数の読み方や表し方を理解する
4	・4位数までの数の大小や順序を確認する
5	・千万の位までの数を数直線上に表したり、数直線上の数を読んだり大小比較をしたりすることができる
6	・一万や千を単位とした数の表し方ができる ・千万の位までの数構成について理解を深める
7	・10倍、100倍の数の表し方を理解する
8	・10で割った数の表し方を理解する
9	・日常生活から見付けた大きな数を新聞にまとめ紹介する

(4) カードこうかんゲーム(合同学習)に用意するもの

こうかんおねがい用紙 (記入例)			
もっている数は?	<input type="text" value="3000"/>		
何のカードにかえたいの? (をつける)	<input type="text" value="1000のカード"/>	<input checked="" type="text" value="100のカード"/>	<input type="text" value="10のカード"/>
何まいもらえるかな?	<input type="text" value="1000のカード"/> まい	<input type="text" value="100のカード"/> 30 まい	<input type="text" value="10のカード"/> まい
何枚もらったのかな?	<input type="text" value="1000のカード"/> まい	<input type="text" value="100のカード"/> 30 まい	<input type="text" value="10のカード"/> まい

・こうかんおねがい用紙(左図) ----- 各ペア20枚程度

・引き出し用数字カードが入った袋 ----- 各ペア2袋
 (練習用、ゲーム用各1袋ずつ)

(引き出し用カード例)

<練習用> 3000 4400 など

<ゲーム用> 350 500 1200 7000 6540など

・交換用数字カード ----- 各ペア1セット
 (セットの中身)

10 のカード 100枚
 100 のカード 100枚
 1000 のカード 10枚

こうかんおねがい用紙と交換用数字カードは
 練習及びゲームで共通のものを用いる

(5) 本時の指導（合同学習）

【第2学年】数の相対的な大きさについて理解する(6/10) 【第3学年】4位数の相対的な大きさについて確認する(1/9)

学習の流れ	小人数の特性を生かした学習活動・指導の工夫		育成したい能力
	学習形態・操作活動	個に応じた支援・指導	思考・判断・表現
1 本時の学習内容を伝える	・異学年ペアを作り作業の準備をする (3年生1人、2年生1人)	・一人一人の習熟の状況を配慮し、ペアの組み方を決める	
カードこうかんゲームをしよう			
2 ゲームの方法やカードの使い方を理解する	・ペアごとに、3年生が2年生に交換方法を示す(1種類のカードに交換する) (例) 3000を表してみる 3000は、1000のカードを 3枚 3000は、100のカードを 30枚	・T1(一斉) T2(個別) ・T1, T2は、2年生への説明が不十分な3年生に対して支援を行う ・T1, T2は交換方法等についての理解が不十分な2年生に個別指導を行う	・2年生に交換方法をわかりやすく説明できる(3年生) ・10のカードで交換したら300枚になることが分かる ・カードの交換を的確に行うことができる ・正しくこうかんおねがい用紙に記入できる
3 数の大きさをいろいろな単位を使ってとらえる	・2年生は、袋<練習用>の中から引き出し用数字カードを取り出し、こうかんおねがい用紙を利用してカードを交換する ・3年生も同様の活動を行い、2年生の答え合わせをして、つまずき等について説明する	・T1, T2は、2年生の習熟及び3年生の説明の仕方を把握し、適宜助言する	
4 カードこうかんゲームをする	・ペアで役割を決める (お客さんと交換係) ・お客さんは袋<ゲーム用>の中から引き出し用数字カードを1枚引き、交換する数字を決める ・お客さんは、何のカードに交換するか考える(1種類のカードだけに交換) ・交換係はお客さんがもってきた数をお客の希望するカードに交換して、その分のカードを渡す ・こうかんおねがい用紙を記入し、教師の所へもっていき、答えを確かめる ・教師の指示を受けて、役割を交代し、同様の活動を行う	T1(一斉) ・交換の仕方に戸惑う交換係に支援を行う ・T1, T2は間違えたペアに支援する ・交換が確実にいえるようになったペアには役割交代を指示する ・1種類のカードに交換ができるようになったペアについては、発展的な交換方法で行うように助言する	・多様な交換方法をイメージすることができる ・お客さんの希望通りに正しくカードを交換できる ・予想した答えと実際にもらったカードを比較して正しいことを確かめることができる ・規則性を見つけて、様々な発展的な交換の方法を考える
5 学習のまとめをする	・確認問題を行い、学習のまとめをする (例) 3600は100が()こ 4800は 10が()こ	・T1, T2は、個々の定着を確認し、つまずきを支援する	・ゲームで学んだことを生かして、問題を解く

数字ゲームをしよう

(合同学習)【第2学年 9/10、第3学年 4/9】

このゲームは1単位時間のはじめの20分程度で実施する

3～4位数のいろいろな数を読んだり、大小を比べたりすることができるようにする

【ゲームの方法】

異学年ペアを作る。どちらも0から9までのカードを持つ。カードをよく混ぜ、4枚を取り出し裏向きに並べる。一の位から順にあげ、大きい方が勝ち。(ただし、0124は3位数124とみなす)

【主な支援】

T1...大きさを比べ大小を判断した根拠をはっきりと言えるかどうか自己評価させる。

T2...何の位のカードで大きさを比べたのか説明させる。説明できない児童に対しては、位と大きさを関連付けて意味を説明するなどの支援をする。

構想例 小学校 第3学年 社会 想定児童数 10名～15名程度

小規模・少人数を生かして
地域に残る年中行事に対する自分の考えをまとめ、表現する力を育成する構想例

1 本構想例の具体的な工夫

児童一人一人の学習の状況を把握し、次時への意欲付けのための評価や学習の進め方の助言などを記入できる学習カードを作成し、活用方法を考えた。

自己評価の場、相互評価の場を設定し、児童自らが身に付いた技能や考え方の変化に気付くことができるようにした。

地域調査活動を行う際、地域に残る行事に対し自分なりの考えをもつことができるように、必ず地域の方々とその行事について話をする場を設定した。

2 指導案

- (1) 単元名 「わたしたちのまつり」
- (2) ねらい ・地域の人々に受け継がれているまつりについて移り変わりの様子や保存継承の努力の様子を調べ、人々の願いについて考えることを通して、地域を大切にしている心情を育てる。
- (3) 資料等

社会科学習カード『わたしたちのまつり』3年 名前()					
ついで調べよう。	わたしたちのまつりの○○○○○に	学習日 /	学習をふりかえって 次の時間のめあて	先生から	
		学習日 /	学習をふりかえって 次の時間のめあて		
	パンフレットに	調べたこと、わた	学習日 /	学習をふりかえって 次の時間のめあて	先生から
			学習日 /	学習をふりかえって 次の時間のめあて	

社会科学習カード『わたしたちのまつり』
3年 名前()

調べること:
わたしたちのまつりの『 』について

調べ方:

心かしの様子	今の様子
気づいたことや考えたこと	気づいたことや考えたこと

声 (まつりの思い出や楽しみを聞いてみよう)

学習カード(部分)・調査カードの例

(4) 指導計画 10時間扱い

	学習の流れ	小規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫		育成したい能力（評価の視点）	
		学習形態	体験・調査活動	個に応じた支援・指導	思考力・判断力
問 題 把 握	ビデオや地域の 高齢者の話など から地域のまつり について関心を もつ (1時間)	一斉	『学習カード』（単元を通じて使用） ・小単元を通して、一人一人の変容を把握し、支援をするために、自己評価と次時の目標を記入する欄を設ける。それをもとに、教師は次時への助言を記入する		・ビデオや高齢者の話などと生活体験を関連付けて、地域のまつりがもつ意味について考える ・まつりについて知っていることや改めて考えたことを分かりやすく伝える
	わたしたちのまつりについて調べよう				
追 究	疑問をもとに課題を見付け、課題別の班に分かれる ・いわれや形態 ・踊りと唄 ・太鼓とお囃子 ・衣装や道具 ・料理 課題別班ごとに調べる計画を立てる (2時間)	課題別班	『調査カード』（計画・調査・パンフレット作りで使用） ・一人一人が課題の解決に向けて取組めるように、計画段階では個別指導を十分行う <調べる課題を記入> <情報の収集方法を記入> ・声の欄には地域の方々へのまつりに対する思いや願いを書き、調査の際には必ず地域の方々とお話を設定する		・生活体験や知識と関連付けながら疑問をもち、調べる課題を見付ける ・課題に対して、どんな資料によって明らかになるかを考える ・調べる場所と調べる内容などを整理して簡潔な文章で書く
	調べたこと、わたしたちのまつりについて考えたことをパンフレットにまとめよう				
ま と め	計画にしたがって調査する ・郷土資料館 ・役場 ・図書室 ・伝統芸能保存会など 収集した資料をもとに、まつりの移り変わりや人々の努力や願いを調べ、パンフレットにまとめる 学級でパンフレットを見合い、感想を話し合う (4時間)	・課題別班で収集した資料は共有し個人で作品を作成する 『地域調査活動』（放課後） ・調査カードをもとに、一人一人が自分で情報を収集できるように、事前に地域の方々に協力を依頼する ・学級で共有したい情報は、その情報の提供者にゲストティーチャーを依頼する	『パンフレット作成過程で』 ・収集した情報を使って、まつりの移り変わりや努力の様子を考える ・写真を活用し、読み手に分かりやすくまとめる ・情報を整理し、まつりに込められた人々の願いを考える ・地域の人々とまつりの関係について考える ・考えた人々の願いを短い文章で書く ・努力や願いに対して感じたことや考えたことを短い文章で書く		
	わたしたちのまつりについて考えたことを地域の人に伝えよう				
	自分はどうなのかかわりがもてるか考え、発表会の準備をする 地域の方々を招いて発表会を行い、考えたことを伝える (3時間)	・課題別班ごとに準備をする（一人一役） 『発表会のゲストティーチャーについて』 ・まつりの保存継承に努力している方々をゲストティーチャーに招き、まつりに対する思いや、児童に対する願いを直接伝えていただく	・パンフレットを参考にして、全員口頭で発表をする	『発表会準備の過程で』 ・まつりに対して、自分はどうなのかかわりがもてるか考える ・自分の考えを伝えることができるように、順序よくはっきりと話す	

構想例 小学校 第3学年 算数 想定児童数 15名程度

小規模・少人数を生かして

習熟の状況に応じた学習を取り入れ、個に応じた指導・支援の充実を図り、数学的な考え方・数理的に処理する能力を育成する構想例

1 本構想例の具体的な工夫

進度確認カードを工夫して習熟の状況を把握するとともに、TTを活用して基礎的・基本的内容の確実な定着を図るようにした。
 個の学習活動を支えるために、課題別プリントを準備したり、パソコンを設置したりして自由に使用できるようにした。
 一人で問題を解決したり、協力して発展的な学習をしたりすることができるように、個別学習や小集団学習を積極的に取り入れた。

2 指導案

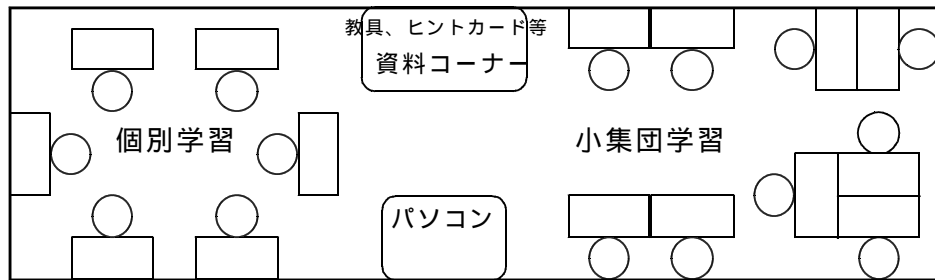
- (1) 単元名「あまりのあるわり算」
- (2) ねらい・既習のわり算の計算方法を生かして、あまりのあるわり算の答えを見付けたり、わる数とあまりの関係を見付けたりすることができる。
 ・あまりのあるわり算の計算とその確かめができる。

(3) 資料等

習熟の状況に応じた学習について

- ・「じっくりコース」(個別学習) ...教師と児童が、個々の習熟の状況を確認しながら、基礎的・基本的内容を基にして問題解決する。TTで、一人一人に応じた指導をする。
- ・「どんどんコース」(小集団学習) ...学習内容が定着している児童が、互いに疑問や考えを出し合って協力的に学習を進める。TTで、一人一人の自発的な学習を促進する。
- ・2つのコースは、児童が単元のねらいを確実に習熟できるように留意して、途中で変更ができるようにする。
- ・「一斉学習」...コース別学習の間に必要に応じて設定する。基礎的・基本的内容の確認や学習のまとめを行う。

学習形態(教室内)



進度確認カード

- ・教師が児童一人一人のカードを持ち、習熟の状況を確認する。
- ・段階の については、児童が理解したことを確認し、次に進むようにする。

段階	評価	形態	確認項目	段階	評価	形態	確認項目
		一斉	「 $20 \div 5$ 」の答えを九九を利用して求めることができる。			個別	4でわるわり算のあまりを比べ、あまりの数の範囲を考える。 $12 \div 4 = 3$, $13 \div 4 = 3$ あまり, $14 \div 4 = 3$ あまり ...
		一斉	「23個の貝がらを5個ずつ分けると何人に分けられるか」を式に表すことができる。(包含除)			個別	あまりは、除数より少ない数であることが確かめられる。
		一斉	の問題の答えを求めることができる。 ア)おはじきなどの具体物や図を使って求めることができる。			個別	$23 \div 6$ の計算の答えが $6 \times 3 + 5 = 23$ で確かめられるわけを考える。
		一斉	「42個のフリージャーの球根を5人で同じ数ずつ分けると1人分は、何個になって何個あまるか。」を立式して答えを求めることができる。(等分除)			個別	あまりのあるわり算の文章題を解くことができる。
		一斉	ア)おはじきなどの具体物や図を使って求めることができる。			個別	あまりのあるわり算の文章題を作ることができる。
		個別	イ)九九を使って商と余りを求めることができる。			一斉	友達の問題を解くことができる。 日常生活に活用しようとする。(ゲーム・など)

構想例 小学校 第5学年 道徳 想定児童数 10名～12名程度

小規模・少人数を生かして一人一人が自分の思いを意欲的に表現できる場を設定することにより、道徳的実践力を育成する構想例

1 本構想例の具体的な工夫

話し合いの中で自分の思いを十分に表現できるよう、グループ編制の人数を考慮した。自分の生活を振り返ることができるように、児童の日常生活の中から思いやりのある行動の場面を見付け、助言に生かせるようにした。課題を具体的に設定し追究するため、地域教材に合わせた映像や体験談を取り入れた。

2 指導案

- (1) 題材名 「三原山二百九年ぶりの大噴火」2 - (2) 親切・思いやり
- (2) ねらい
 - ・登場人物の行動や価値に共感し、相手の立場を思いやり親切にしようとする気持ちを育てる。
 - ・自ら思いやりをもって生活しようという意識を高める。
- (3) 資料等
 - ・読み物教材 「三原山二百九年ぶりの大噴火」 出典 みんなのどうとく 東京都版 5年

あらすじ

昭和61年11月21日、伊豆大島の三原山が大噴火。島に住んでいた人と観光客全員が島外へ緊急避難した。東京の各区の総合体育館での避難生活は、約ひと月に及んだ。家族と共に避難していたかずえは、近くの小学校に通うことになる。初めて登校した日は緊張していたが、翌朝思いがけなく雅美が迎えに来てくれて不安だった気持ちが一変する。島の様子とは違うことばかりでとまどうことが多かったが、友達の思いやりを受けながら学校にも慣れ、楽しい毎日を過ごしていく。やがて、噴火がおさまりまた島へ帰る日がやって来た。かずえたちの送別会が開かれ、思い出の数々に送る人も送られる人も共に別れを惜しむ気持ちだった。

・「まとめ」について

教師は親切に関する体験談を用意し、児童からの質問や疑問に答えながら内容に変化をもたせて話す。思いやる気持ちの温かさや心を通わせ合う充実感を感じることで、自分もまたそうありたいという願いをもてるようにする。

・ワークシート 例

名前

* 相手を思う気持ちをどのような行動に表したことがありますか。

- ・ どのような人に対して
- ・ 伝えたい気持ち
- ・ 言葉や行動
- ・ 行動した後の気持ち

・板書 例

三原山二百九年ぶりの大噴火

噴火の写真 (感想)

「心細い気持ちの人をどのようにはげますことができるだろう」

* 資料から考えること

- ・ かずえは初めどんな気持ちだったか
- ・ 雅美はどんな思いで行動したのか
- ・ 他の友達はどうな思いで行動したのか
- ・ かずえは友達のしたこととどのような気持ちになったか

かずえ 不安 きんちょう

←

友達と行動した(心配だから)

・ 貸してあげた(心配から)

・ 借してあげた(心配から)

かずえ 安心 うれしい

(4) 指導計画

	学習活動	少規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫			育成したい能力（評価の視点）	
		学習形態	活動の工夫	個に応じた支援・指導	思考力・判断力	表現力
問題把握	三原山の噴火や避難する時の様子を思い描き、問題意識をもつ	一斉	・映像や体験した人の話をもとに、噴火の時の様子を思い描く	・災害を逃れて避難する人々の気持ちはどうであったかを考え、どんな言葉で言い表せるか考えてみる 「こわい」「悲しい」「つらい」「心配」「必死」「不安」「心細い」など	・噴火の際の人々の様子や気持ちを想像する	・映像や話から避難する人々の気持ちを想像し適切な言葉で言い表す
	5分	心細い気持ちの人を、どのようにはげますことができるだろう				
追究	資料を読み、登場人物について話し合う ・かずえ ・雅美 ・男の子 ・クラブの仲間	一斉	・登場人物の人柄や性格について簡単に描写する	・登場人物の行動や価値に対する考えを明確にもてるようにするため、「誰のどんなところに心を動かされたのか」を児童一人一人に尋ねる	・登場人物の行動や気持ちのどこに共感できるのか考える	・心を動かされたり共感したりしたことを簡潔に話す
	雅美や友達の行動について考える ・迎えに行った ・わからないことを教えてあげた ・定規を黙って貸してあげた ・編み物を教えてあげた などの行動	グループ	・3人程度のグループを作って話し合う	・雅美や友達はどんな思いでどんな行動をしたのか 友達の行動によって、かずえはどんな気持ちになったのか ・自分の思いを十分に伝え合えるようにグループの人数を3人程度にし発言の機会を多くする ・発言することに抵抗のある児童には、発言のパターンを示してやり、話しやすくする	・友達の行動に込められたかずえに対する思いを考える ・伝えたい思いがどのように伝わったのか、かずえの様子の変化から考える ・友達の話をよく聞いて考えを深める	・テーマについて積極的に話し合う ・資料をもとに、自分の考えや根拠などを聞いている人によりわかりやすく伝える
	親切や思いやりがどのように人を励ますかを考える	一斉	・グループでの話し合いの後、全員で親切や思いやりについて話し合う	・島へ帰るかずえは、友達にどんな気持ちを伝えたいのかを想像し、一人一人が言葉に表してみる 「すっかり元気になったよ、どうもありがとう」 「みんなに優しくされて嬉しかった」 「もう大丈夫。島へ帰ってがんばるよ」など	・親切な気持ちや行いが人を励ますことに気付く	・かずえの気持ちを表す言葉を考え、表現する
	20分					
究	相手のことを思う気持ちを、どんな言葉や行動に表したことがあるか考える ・友達に対して ・家族に対して ・身近な地域の人に対して ・他の地域や世界の人に対して	個別	・ワークシートで自分自身の行動や気持ちを振り返る	・行動のきっかけとなっている気持ちを例示して考えやすくする。 「大丈夫かな」「励ましたい」「元気付けたい」「何かできることをして力になりたい」など ・人のために何かをした時の自分が、どんな気持ちを味わったかも併せて考える ・自分を振り返ることができるように、児童の日常生活の中から思いやりのある行動の場面を見付け、助言に生かす	・自分のしたことや伝えなかった気持ちを考える ・親切にした時の自分の気持ちを考える	・自分のしたことを振り返り、伝えようとした気持ちをはっきりさせて書く
	書いたことを発表し聞き合う	一斉	・友達の話を聞いて、よさを見付ける（相互評価）	・友達の行動のよいところを見付けるようにする ・相互に見付けられない場合は教師が補足し、すべての子どもが自分のよさを認識し、成就感をもてるようにする	・相手を思いやる気持ちが親切な行表としてに気付く	・友達のしたことよさを感じたり味わったりして、共感する気持ちを示す
15分						
まとめ	話を聞く	一斉	・「親切」に関する教師の体験談を聞く	・児童の疑問や質問にも答えながら、内容に変化をもたせて話をする	・思いやりをもつことさを感じ	・聞いてみたいことを質問する
5分						

構想例 小学校 第6学年 国語 想定児童数 5名～15名程度

小規模・少人数を生かして
個別の課題を多様な方法で調査し、報告文を書くことを通して表現力を育成する構想例

1 本構想例の具体的な工夫

児童が意欲的に学習に取り組むようにするために、追究活動段階では多様な調査方法を取り入れた。

思考力や判断力を育成し表現力を高めるために、話し合い活動や聞き取り調査を取り入れた上で調査報告文を書くようにした。

調査報告文を役所の人に読んでもらうことによって、自分の書いた文章が町づくりの一助になることを実感できるようにした。

2 指導案

- (1) 単元名 「調べたことをもとにして自分の考えが伝わるように表現しよう」
- (2) ねらい
 - ・自分の生活や地域を調べることを通して郷土を見つめ直し、自己の思いや願いを調査報告文に表す。
 - ・様々な調査活動や表現活動を通して、自分の考えを深めるようにする。
- (3) 資料等

学習カード 6年

1 「私たちの将来」を読んで、自分たちの住む町のことを考えながら、感想を書きましょう。

2 調べてみたいことや調べる方法を考えましょう。

調べたいこと	どこで調べるか・だれに聞くか

No. 調査カード 6年

調べたいこと

調べた場所・お話をうかがった人

調べてわかったこと

感想

(4) 指導計画 9時間扱い

	学習の流れ	小規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫			育成したい能力（評価の視点）	
		学習形態	体験・調査活動	個に応じた支援・指導	思考力・判断力	表現力
問 題 把 握	過疎化の進む十津川村について書かれた作文「私たちの将来」を読む	一斉学習 ・全員で朗読する 個別学習 ・感想をカードに書く	自分たちの住む町の現状、地域の人や保護者が町のことをどう考えているか、自分は将来どんな町にしたいかを中心に話し合う		・作者の十津川村に対する思いや願いを読み取る ・自分たちの住む町と十津川村の共通点を考える	・作者の思いが伝わるよう工夫して朗読する ・作文の感想だけではなく、自分が住む町に対する思いも書く
	みんなで話し合う (1時間)	一斉学習 ・話し合う		・意見が言えない児童については、カードに書いた自分の考えを発表させる	・友達の考えを踏まえて自分の考えをもつようにする	・カードに書いた自分の感想や友達の意見をもとに自分の考えを発表する
自分たちの住む町を調べ、私たちの将来を作文に書こう						
追 究	書きたい題材を決め、調べる内容や手立てを考える	個別学習 ・調べてみたいことを「学習カード」に書く 個別学習 ・調査場所や話を聞く人を誰にするか考える	児童の発想を促すために同じ調査対象を考えている児童で小グループをつくり意見交換ができるようにする ・地域には歴史や文化等に詳しい人がいることを知る	・博物館・資料館のパンフレットを用意しておく	・身近な問題や生活から調べてみたいことを考える ・自分の知りたい情報はどこにあるかを考える	・自分の考えを整理して、箇条書きで表す ・「調査カード」に記入する
	調べたいことを調査する	個別学習 ・資料館・博物館等での調査 ・保護者、地域の人へのインタビュー ・文献やインターネットでの調査	・関連する情報も入手する 調査先の保護者や地域の人には、自分の思いや願いも話していただくよう、あらかじめお願いしておく	・難解な資料には解説を加える	・調査を通して、次の点について自分なりの考えをもつ 現状 問題の背景 予想される将来	・相手に自分の知りたいことが伝わるように質問する
ま と め	調査したことをまとめる	個別学習 ・調べたことを「調査カード」にまとめる	少人数であるという学習環境を生かして児童一人一人が多様な調査方法を体験できるようにする		・調べたことの中から調査報告文に活用できそうなものを選ぶ	・調べた結果に対する自分の考えも書く
	調査報告文を書く	個別学習 ・「調査カード」をもとに調査報告文の構成を考える ・執筆 ・推敲 一斉学習 ・調査報告文をもとにしながら調べたことや自分の考えを発表する	調査報告文を書く中で自分の住む町を再認識させ、地域に対する愛着や誇りを一層はぐくむために、自分の町に対する願いや思いを調査報告文の中で述べるよう助言する 町役場にも行き、児童が地区の行政担当者自分たちの思いを伝えるようにする		・書きたいことを整理して構成を考える ・調査活動や調査報告文を書くことを通して町に対する自分の思いを整理する	・「事実」と「意見」を区別しながら作文を書く ・よりよい表現になるよう文章の組み立てを工夫する
	文集をつくる	一斉学習 ・文集づくり 個別学習 ・調査場所を訪問し、文集を配付する	・文集を読んでの意見や感想を聞く		・大人の考えと自分の考えを比較し、自分の考えを再構成する	・感謝の気持ちを表したお礼状を書く
	(4時間)					

構想例 中学校 第3学年 音楽 想定生徒数 10名～15名程度

小規模・少人数を生かして

一人一人の計画に基づき活動を選択させ、豊かな表現力を育成する構想例

1 本構想例の具体的な工夫





一人一人の思いや考えを生かし、グループ編制を含めて自らが計画を立て、自由に活動を選択できるようにした。

生徒が活動の見通しをもつことができるとともに、教師が個の活動を把握し、支援の手だてをとることができる練習計画表を作成した。

一人一人が太鼓に触れ、地域の八丈太鼓奏者の直接指導やグループでの学び合いにより、太鼓のたたき方などの技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高められるようにした。

2 指導演

- (1) 題材名 「自分たちの『八丈太鼓』を創作しよう」
- (2) ねらい
 - ・ 楽曲を創作する手順を理解し、その楽しさを味わうことができる。
 - ・ 楽器や奏法の違いなどの特徴を感じ取ることができる。
- (3) 資料等

「自分たちの『八丈太鼓』を創作しよう」練習計画表 ()組()班 氏名()			
時間	最初の計画	本時の評価	感想や反省、次時の修正
1	(例) ・ 基本打ちをしっかり身に付ける。 ・ 名人の所に行き、いろいろな打ち方をマスターする。	楽しくできた 自分の思いを表現できた 工夫して練習ができた  技能が高まった かかわりがもてた	いろいろな打ち方を教えてもらった。基本打ちはできたが、他は難しかった。 基本打ちを全員でマスターし、合わせてみる。後半は3班と合同で練習する。
2	・ パートに分かれ、基本打ちをマスターする。他班の練習も見る。	楽しくできた 自分の思いを表現できた 工夫して練習ができた  技能が高まった かかわりがもてた	
3		楽しくできた 自分の思いを表現できた 工夫して練習ができた  技能が高まった かかわりがもてた	
4		楽しくできた 自分の思いを表現できた 工夫して練習ができた  技能が高まった かかわりがもてた	

* 自己評価の観点を示し、生徒が本時の活動を振り返りやすくするとともに、教師が個人の練習の進捗状況の把握や評価に役立てられるようにした。

* 計画に柔軟性をもたせるため、毎時間ごとに次時の修正欄を設けた。

(4) 指導計画 7時間扱い

	学習の流れ	小規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫			育成したい能力（評価の視点）	
		学習形態	体験・調査活動	個に応じた支援・指導	思考力・判断力	表現力
問	八丈太鼓の基本的打ち方を知る ・地域の八丈太鼓奏者の演奏を聴く ・自由に太鼓をたたく	一斉学習 ・演奏を聴く 個別学習 ・太鼓をたたく	・八丈太鼓奏者の演奏を聴くことで基本の打ち方をイメージする	・聴く時の観点をあらかじめ示しておく	・八丈太鼓の基本打ちをイメージする	・自分なりのイメージで太鼓をたたく
把	自分たちの「八丈太鼓」を創作しよう					
握	少人数のグループ（2～4人）を作り、グループで練習計画を立てる ・練習計画表を作成する （2時間）	グループ活動 ・話し合い ・立案 ・少人数でグループを作る ・個に応じた指導計画を立てる		・練習のイメージがわからず、計画が立てられないグループには練習方法を例示するなどの支援をする	・練習計画に基づき、具体的な練習方法を考えるとともに、グループ編制についても考える	・自分がどのような思いを太鼓で表現するのかをグループのメンバーに伝える
追	<p style="text-align: center;">活動の選択 練習計画をもとにして練習をする（グループ学習）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>八丈太鼓について取材や調査により理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の八丈太鼓奏者に奏法やリズム等について教えてもらう ・文献資料やビデオ、テープなどから八丈太鼓の奏法等を調べる </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>八丈太鼓の練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本打ち ・強弱、リズム、間合い ・グループ内、グループ間で演奏を聴き合ったり、奏法を教え合ったりすることで相互評価を行う </div> </div> <p style="text-align: center;">練習方法を見直すとともに練習方法について話し合う *グループの計画に応じ、活動を選択する</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・計画は柔軟に考え、修正しながら練習を進めるよう助言する 取材・調査 ・自分が知りたいことややりたいことなど取材・調査する内容を明らかにさせておく ・ビデオやテープレコーダで取材内容を記録し、練習に役立てるよう助言する ・進度別に練習の場を設定する ・効果的な練習をしているグループは賞賛し、他にも紹介する ・毎時間の自己評価のポイントを提示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教わったり、調べたりしたことをもとの自らのイメージのリズムを創作していく 	
究	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、計画表に進捗状況や反省を記入し、自己評価を行う ・追究2時間目終了後、グループ間で進捗状況を報告し合い、相互評価を行う <p style="text-align: center;">（4時間）</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・各グループが取材機器を自由に使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・取材や調査したことを生かし、練習の方法を考える ・他のグループの練習と比較し、よい部分を自分たちの練習に生かす ・毎時間の自己評価により、次時からの練習計画を修正する 	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーや他のグループの演奏を聴き、リズムや音の重なりなどを感じ取りその特徴を生かして表現する
ま	発表会をする ・演奏前に工夫したところや聴きどころを発表する ・地域の方を招待する ・演奏を聴いて、よかったこと、感動したことをカードに記入し、発表し合う	一斉学習 ・グループごとの演奏を聴き合う ・感想カードに記入 ・感想発表	・地域の方から演奏を聴いた感想を聞く	・聴く観点（音の重なり、強弱、工夫点）を明確にして聴かせる	・全体の響きの調和や音の重なり、強弱など、工夫した点を感じ取りながら聴く	・演奏前の発表では自分のグループのよさを分かりやすく伝える ・グループの願いや思いを音で表現する
め	学習のまとめをする ・学習を振り返り、反省や感想をカードに記入し、発表し合う （1時間）	個別学習 ・カードに記入 一斉学習 ・感想発表	・全員に発表の機会を与える			・自分の考えを整理してカードに記入し、分かりやすく発表する

構想例 高等学校 第2学年 外国語（オラルコミュニケーション：OC） 想定生徒数 20名程度

小規模・少人数を生かして
地域紹介を中心とした英語ニュース番組の制作を通して、身近な人々とコミュニケーション
できる力を育成する構想例

1 本構想例の具体的な工夫

4人で1グループを構成し、各生徒が自分の役割を認識し、話し合いの中で、それぞれの立場から発言する活動を多く取り入れた。

英語によるニュース番組の制作過程において、地域に主体的にかかわり、自分たちから発信する活動を取り入れた。

チェックシートにより、進行状況について自己評価・相互評価する場面を多く取り入れた。

2 指導案

- (1) 単元名 「地域紹介を中心とした英語ニュース番組の制作」
- (2) ねらい
 - ・少人数クラスでのグループ活動を通じた問題解決学習により、自分たちがもつユニークな情報や考えを相手に伝え、効果的な発表技術を習得する。
 - ・地域の人々への取材・インタビューによる特集コーナーを制作することにより、地域への関心をもって身近な人々とコミュニケーションできる。

(3) 資料等

グループ内の生徒の役割

Newscaster(2人)
Cameraperson(1人)
Director(1人)

収集・取材するニュースの3分野

World Report
(海外ニュース)
Domestic Report
(国内ニュース)
Special Report
(特集：地域紹介)

進行状況の評価項目

資料の収集手順
原稿の作成手順
取材の手順
ビデオ編集手順

ニュース番組アウトライン作成シート

Let's Make Our Own NEWS PROGRAM!
class(2-) no.() name()

Members and Roles:
1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____

Name of our NEWS PROGRAM:

Outline of the NEWS:

1 World Report _____

2 Domestic Report _____

3 Special Report _____

発表評価シート

Evaluation Sheet
class(2-) no.() name()

Group	Content	Delivery	English
	A B C	A B C	A B C
	A B C	A B C	A B C
	A B C	A B C	A B C

教師、生徒記入の評価シートをポートフォリオとして活用する。

(4) 指導計画 10時間扱い

J T E : 日本人教師 A L T : 外国人指導助手

	学習の流れ	小規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫			育成したい能力（評価の視点）	
		学習形態	体験・調査活動	個に応じた指導	思考力・判断力	表力・コミュニケーション力
問題把握	英語放送番組の視聴を通してニュース番組の構成を理解する ・独自のニュース番組を作る意欲の促進・動機付けを行う (2時間)	[一斉学習] ・英語によるニュース番組を視聴する [個別学習] ・一人一人が番組の構成内容をワークシートに記入する	[体験] ・生の英語(オーセンティックな言語使用)に触れる	[個別指導] ・ワークシートに構成のポイントが書かれているかチェックする	・ニュース番組で放映されたことを内容によって分類、整理する	・ニュース番組の視聴を通して、情報や考えを的確に受け取る ・受け取った内容について英語でまとめて書く
追	グループごとに、ニュース番組に取り上げる題材を決め、調べる内容や手立てを考える (1時間)	[グループ学習] ・構成員の4人で役割を決めて責任をもつ ・英字新聞を活用しグループごとに発表したい記事を選択する	[体験] ・英字新聞を読み最新の英語使用に触れる ・A L Tはニュースの背景説明や解説を適宜行う	[個別指導] ・英字新聞の構成や見出し、内容などについて、一人一人の質問に応じる ・小さなニュースにも興味深い内容があることを伝える	・写真、見出し、既知の単語などから記事の内容を考える ・ニュース番組に適した情報を選択する	・話し合いの中で自分の考えを建設的に述べる
	Special Report(特集)の中で、グループごとに地元に住む興味深い人物(外国人を含む)にインタビューし、英語で紹介する特集コーナーを制作する (3時間)	・グループごとに3分野で、ニュースを収集、取材する ・Special Report以外の2分野については、英字新聞等を活用し発表原稿を作成する	[調査活動] ・地元に住む人にインタビューする ・インタビューの様子をビデオに撮影する	・英文原稿の作成については、グループ全員に分担させ各自に責任をもたせる [習熟度別指導] ・学習段階に応じて、J T E及びA L Tは適宜、英文チェックなど助言をする	・解決に必要な資料を収集し、分類する ・伝えたい記事のポイントを考える ・チェック表を活用して、自分の進行状況を確認する	・インタビューする人に取材の趣旨をはっきり伝える ・A L TやJ T Eに積極的に英語で質問し会話を成立させる ・分かりやすい表現を使って原稿を書く
	<p>小規模・少人数を生かして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒はニュースの発信者として、グループの構成員と協力して独創的なニュース番組を構成する ・小集団(4人)の特性を生かし、各生徒が役割をしっかりとつかみ発言する ・グループが複数あることを生かし、多様な発表をするよう各生徒が工夫する ・生徒は小集団での話し合いの中で、自分の考えを述べ、意見を調整する ・教師は各グループ、各生徒の進行状況に基づく評価チェック表を用意する 					
究	グループごとに作成したこと、取材したことをまとめる (2時間)	・Newscasterとして原稿を読む場面を撮影する	[体験] ・撮影したビデオを、グループごとに15分程度の番組に編集する	[個別指導] ・発表原稿の読み方を個別に指導する	・グループ内での進行状況を相互に確認する	・自分たちの考えや情報を、映像と音声を使って効果的に伝える
まとめ	グループごとに編集したビデオを発表する (2時間)	[一斉学習] ・グループが編集したニュース番組をクラス全体で視聴する [個別学習] ・ニュース番組としての完成度・独創性を相互に評価する	・インタビューでお世話になった人々に、制作したビデオをプレゼントする ・地域の観光課にビデオを置き、外国人観光客等への地域紹介として活用する	・J T E及びA L Tは、各グループの発表を評価シートに記入し生徒にフィードバックする	・他のグループの発表のよさや改善点を考える	・自分たちの情報や考えを効果的に相手に伝える ・感謝の気持ちを伝える

4 調査委員による授業実践と考察

作成した学習指導案の様式の有効性と小規模・少人数を生かした学習指導の方法を検証することを目的に調査委員を依頼した。調査委員は西部山間地区から小学校、中学校教諭各1名ずつ、島しょ地区から同じく2名ずつの計6名であり、それぞれが学習指導計画を作成して検証授業を行い、その結果を記録・分析した。

ここでは紙面の関係上、西部山間地区から中学校1事例、島しょ地区から小学校1事例、計2事例を掲載する。

実践事例 小学校 第3学年 総合的な学習の時間 対象児童数 12名

小規模・少人数を生かして地域の身近な人々とかかわりや具体的な体験活動・調査活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る事例

1 本事例の具体的な工夫

表現力を育成するために、地域の人々とかかわり合いながら学ぶ活動を多く取り入れた。思考力・判断力を育成するために、個々の疑問や願いを追究するための時間を確保した。意欲的な探究心を養うために、主体的な作業や活動の場を多く設定した。

2 指導案

(1) 単元名 「炭に親しむ」 - 大島の炭づくりを探りながら -

(2) ねらい

- ・大島での炭づくりを知り、自分たちで炭をつくる活動を通して、炭に親しむことができる。
- ・興味や関心をもった課題に対して、解決していくための学び方を身に付けることができる。


(3) 指導計画 25時間扱い

	学習の流れ	小規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫			育成したい能力(評価の視点)	
		学習形態	体験・調査活動	個に応じた支援・指導	思考力・判断力	表現力
問題把握	秋広平六に関する書籍を読む 大島での秋広平六の功績をまとめる (2時間)	一斉学習 ・紙芝居風の読み聞かせをする 個別学習 ・平六の紹介をする		・難しい語句を分かりやすく説明する		・大島で炭づくりが盛んであった理由を考える
追究	炭焼き窯を見学し、炭づくりや窯などの説明を聞く (1)7月：火つけ (2)11月：取り出し (6時間)	一斉学習 ・炭焼き窯を見学する ・炭づくりの説明を聞く	《見る・聞く》 ・地域の方から炭づくりの方法や努力、工夫を聞く	・話の聞き方、質問の仕方を事前に指導する	・炭づくりの努力や苦労等を考える ・大島で炭づくりが盛んに行われていた理由を考える	・相手に自分の知りたいことが伝わるように質問する ・感謝の気持ちを伝える
	自分たちで炭づくりに挑戦する (4時間)	グループ学習 ・竹切り ・窯づくり ・火つけ ・取り出し	《作る》 ・竹を切り、自作の窯で炭をつくる	・刃物の使い方を指導し、安全に留意する	・見学したことをもとにそれぞれの作業のもつ意味を考える	
	自分たちで作った炭を使って、バーベキュー大会を開く (4時間)	グループ学習 ・炭焼きのよさを味わう	《食す》 ・炭のよさを体験する	・火の扱いに注意し、安全に留意する		・炭で焼いたときのよさを自分なりの表現で発表する

追 究	炭の話聞く	一斉学習 ・炭の様々な活 用法を知る	《聞く》 ・昔の生活の話 や最近見直さ れてきた炭の 活用法につい て知る 《実験・調査》	・事前に個々の課 題を把握し、必 要に応じて調査 方法や資料を提 供する	・自分の課題追 究に必要な情 報や資料を選 択する	・相手に自分 の知りたい ことが伝わ るように質 問する
	課題ごとに探究活動を行 う (7時間)	個別学習 ・各自の課題を 追究する			・実験・調査、 検証などをし ながら、自分 なりの考えを もつ	
《木炭の効用》(大島町シルバー人材センター)						
炭火は名コック 遠赤外線量が多くうま味を逃さない なべ等の焦げつきをきれいに落とす		土はよみがえる ミネラルを補給し植物の成長をよく する				
環境を守る 河川汚染の悪臭除去・汚染物質を減 少させる。水質の浄化に役立つ		快適な住まい 木炭を建物の床下に敷く、湿度調節 効果、脱臭効果、白アリ・ダニ予防 カビ等による土台床下の腐食予防に より、快適な住居環境が得られる				
ま と め	お世話になった地域の 方を招いて発表会を行 う (2時間)	一斉学習 ・課題追究の結 果の報告をす る	《発表》 ・自分の課題に ついて発見し たことや感動 したことを他 の人に伝える	・聞き手に分か りやすいよう に発表の仕方 や内容につ いて助言す る	・友達の発表を 聞き、今後の 生活への応用 方法を考える	・調べて分か ったことや 自分の考え を整理して 発表する

3 授業の実際 11 / 25時間

- (1) 題材 「炭づくりに挑戦しよう」
 (2) ねらい ・焼き上がった竹炭を取り出し、できればを見合い、自分なりの感想や考えを表現することができる。
 (3) 授業記録(抜粋)

教師の動き(発言)	児童の動き(発言)	分析・考察
焼いた炭がどうなっているか、見てみましょう。	掘っていいの？ 掘ろう、掘ろう。	興味・関心が非常に強い
秤に置いてみましょう。何キログラムだったかな？	(缶が見えると全員が歓声を上げる。) 5.6 kg オーっ、半分になっている。 2.2 kg	重量が減ったことに大きな驚きをもっている。同時に炭に対する興味・関心をさらに高めた。
		
縮んでしまったのかな。開けてみましょう。	アー、失敗したらどうしよう。 (全員で5、4、3、2、1と掛け声をかける。) (炭が見えると全員が歓声を上げる。) 縮んでる。きれい。虹色だよ。 なんじゃ、これ。成功だよ。黄金の竹。	炭に対する興味・関心が高まっていたので出来上がった炭の観察が丁寧になされている。

<p>せっかくだから、この感動を書いておこう。 新聞づくりのもとになるので、思ったこと、感じたこと何でも書いておこう。 発表してください。</p> <p>火がつくか、やってみましょう。</p> <p>炭を入れてごらん。</p> <p>よく知っているね。</p> <p>やりたくなってきたでしょう。</p> <p>この次の計画を4時間目に立てます。</p> <p>(火起こしに失敗したグループを集めて)失敗の原因は何かな。新聞紙はゆるめの方がいいよ。細い木がぬれていたのかもしれない。今度こそ成功しようね。</p>	<p>この炭で書こうかな。</p> <p>成功するか心配していた。成功して、うれしかったです。 いよいよ掘り出す。楽しみだ。炭が輝いていた。何を焼くか、楽しみだ。</p> <p>エーッ 先生、下の穴から火をつけるんだよ。 先生これ(杉の枯れ葉)を使うといいよ。</p> <p>煙が出る。 煙が出る炭は、だめなんじゃないの。 Yさんから聞いた。 アーッ、赤くなっている。 (グループに分かれ、火をつける。)</p> <p>(Yさんに)お礼を言いたい。</p>	<p>炭への愛着を感じている</p> <p>活動の見通しをもたせる教師の発言である。</p> <p>体験学習によって得られた感動を生き生きと表現している。</p> <p>杉の葉がよく燃えることや炭の特徴をよく知っている。炭焼き窯での体験が生きている。</p> <p>今までの体験をもとに工夫しながら火をつけている。 炭焼きを教えてくれたYさんのことが強く印象に残っている。 失敗したグループに対して、その原因を考えさせている。</p>
--	--	---

4 考察

(1) 体験的学習の充実による思考力・判断力の育成

本時の児童の発言「黄金の竹」「炭が輝いていた」「(杉の枯れ葉を)使うといいよ」「煙が出る炭はだめなんじゃないの」にみられるように、細かく観察する力や考える力が身に付いている。これは、事前の6時間にわたる炭焼きの窯場の見学や名人からの聞き取りなどを盛り込んだ丁寧な指導による成果であると考えられる。

また、「失敗の原因は何かな」「新聞紙はゆるめの方がいいよ」「細い木がぬれていたのかもしれない」という教師の助言が児童の思考力や判断力を育成することに有効である。

(2) 地域の人材の活用による地域のよさの実感の高まり

実際に炭焼きをしている地域の方とかかわる体験を授業に取り入れたことによって、炭焼きの仕事や大島の炭に親近感をもって授業に取り組んでいた。本時では、炭に火をつける際の児童の発言や(Yさんに)「お礼を言いたい」などのつぶやき、そのときの表情などからそれを感じ取ることができた。こうした活動が地域の方にあいさつしたり、話しかけたりするなど、日常的な表現力の育成に結び付いていくと思われる。

(3) 育成したい能力の明確化と指導の手だての工夫

育成したい能力として「相手に自分の知りたいことが伝わるように質問する」という具体的な姿を指導計画に位置付けたことにより、それに対応して「話の聞き方、質問の仕方を事前に指導する」という指導を考えている。本学習指導案の様式が、育成したい能力を教師に意識させ、学習活動や指導の工夫に結び付いていった一例であると考えられる。

実践事例 中学校 第3学年 音楽 対象生徒数 28名

小規模・少人数の特色を生かして
小グループで歌唱や器楽に取り組むことにより、豊かな表現力を育成する事例

1 本事例の具体的な工夫

一人一人の特性を生かし、表現力を育成するために、歌・楽器の選択、グループ編制、選曲、練習計画・練習場所など可能な限り、生徒が主体的に選択できるようにした。
一人一人が意欲的に練習に取り組み、表現の技能を定着させるために、グループの思いや願いを生かした曲を教材化した。
小グループでの発表会を取り入れたコンクールを行うことにより、小規模校の学校行事との関連を図り学習意欲に結び付けた。

2 指導案

- (1) 題材名 「曲や歌、楽器を選んでアンサンブルをしよう」
- (2) ねらい
 - ・アンサンブルでの歌、楽器の演奏を楽しみ味わうことができる。
 - ・お互いの発表を聴き合うことで演奏の違いや各グループの工夫した表現を感じ取ることができる。
 - ・小グループの特性を生かした練習計画を立て、練習の方法を工夫して、発表をすることができる。
- (3) 資料等 <相互評価をするために使用したワークシート>

審査用紙				
		年 組 番氏名		
グループ名『発表曲』	審査項目	評価	感想、反省など	
1	曲の感じがよく出ているか。			
	言葉がはっきりしているか。			
	声のバランスがよくとれ、ハーモニーは美しいか。			
	演奏態度、鑑賞態度はいいか。			
2	曲の感じがよく出ているか。			
	音がしっかりと出ているか。			
	各楽器のバランスがよくとれ、ハーモニーが美しいか。			
	演奏態度、鑑賞態度はいいか。			

審査基準 ...優れている ...よい ...ふつう ...もう少し

MEMO


(4) 指導計画 11時間扱い

	学習の流れ	小規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫			育成したい能力（評価の視点）	
		学習形態	体験・調査活動	個に応じた支援・指導	思考力・判断力	表現力
問題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の形態について知る ・歌唱・器楽の演奏形態について知る 	一斉学習		<ul style="list-style-type: none"> ・今までの歌唱、器楽の経験の有無や得意なものやってみたいものを選択してよいことを示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな表現活動があることを知り、自分に合ったものをイメージして、選択する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の希望をはっきりと伝える

	<ul style="list-style-type: none"> 自分がどちらの部門で参加するか考える（歌唱か器楽） 少人数のグループ（各4人）を編制し、グループで選曲、担当楽器などを相談する（1時間） 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動話し合い計画立案 	<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を自分たちで見付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで楽譜の入手方法、楽器の難易度などを考えられるよう、グループの実態に応じて助言する 	<ul style="list-style-type: none"> グループ編制や選曲について可能かどうか判断する 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の組み合わせなどについて自分の意見を述べる
追 究	<p>活動の選択 （グループごとの練習活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループまたは個人が進度に合わせて練習内容、活動を選択する 他のグループと発表し合うなど、練習の中でも相互評価を行う 自分たちの演奏を録音したものを聴き、自己評価する *歌グループには、各パートのテープと録音用テープレコーダーを用意する *器楽グループについては、個々の能力に応じて編曲の相談にのる *各グループの練習が一斉にできるよう練習場所を振り分ける <p>（9時間）</p>		<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて編曲し、楽譜を修正していくなど生徒一人一人の技能を生かすような支援をする 各練習場所を回って個別に指導する 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的に練習ができるような方法を考える 他のグループの練習と比較し、よい部分を取り入れ練習に生かしていく 	<ul style="list-style-type: none"> 練習の工夫などについて自分の考えを仲間伝える 他のグループの表現のよさを話し合う 	
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会での発表 学習を振り返り、反省や感想を用紙に記入する <p>（1時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一斉学習 各グループの演奏を聴き合う 一斉学習と個別学習 審査・感想用のワークシートに記入 	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会のビデオを使用し、各自の発表を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の視点として、審査のポイントを示す よいところを見付けられるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの演奏と自分たちの演奏を比較し、自他のよさを感じ取る 自分が感じたことをしっかり書く 自他の演奏をしっかりと聞き評価したり、反省したりする 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に合った表現をする ステージで伸び伸びと発表する 自分の感想を他の仲間のポイントを押さえて伝える

3 授業の実際 11 / 11時間

教師の動き（発言）	生徒の動き（発言）	分析・考察
<ul style="list-style-type: none"> 発声練習。 「海・風・光」（全校合唱曲）の合唱指示、ピアノ伴奏。 生徒を褒める。 「ちゃん、とってもいいね」 ペアによる合唱指示。 来週行う「海・風・光」の歌のテストについての確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 腹式呼吸「スー」「マー」 起立。混声合唱。 男女ともよく口が開き、声が出ている。嬉しそうにほほえむ。 ペアによる合唱。 	<ul style="list-style-type: none"> 伸び伸びと歌い、リラックスした雰囲気を作り出した。 個々の生徒への働きかけが効果的で学習意欲の高まりが見られた。

<ul style="list-style-type: none"> ・記入時間（1分）の指示。 「さんがよくピアノを合わせていたよね。やったことのない人とはとても思えないね。」 「弟、やさしいよね。体育館で1人で練習していた時に『がんばって』って声をかけていたよね。」 ・各生徒に質問。 「どこが印象に残りましたか？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・審査用紙記入。 笑い声あり。温かい雰囲気。  <ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表。 「グループは、迫力があつた。」 「島唄（曲名） 箏の2人の音のバランスがとれていて、ハーモニーが美しかった。」 「島唄の さん（ピアノ）がうますぎます。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の兄弟関係や家庭の様子を把握し、指導に生かすことで、温かい学級の雰囲気がつくり出されている。 ・自分の感想のポイントを押さえ、他の仲間に伝えていた。 ・教師と生徒の信頼関係が築かれていた。 ・審査項目に沿った感想を発表していた。審査用紙が相互評価の視点として有効に活用されている。
--	---	--

4 考察

(1) 表現方法や表現形態の工夫による意欲の高まり

歌や楽器のアンサンブルに取り組むことを通して、生徒が非常に楽しそうに自分の心情を表現していた。このように生徒の表現する力の伸長が見られた要因として、小規模・少人数のよさを生かして、楽器や曲の選択については、生徒が自分たちで考え、希望を出し、表現方法も工夫するなどして、学習意欲を高めていったことや教師が各練習場所を回る際に個別の技能指導などを充実させたことなどが考えられる。

(2) 練習方法や表現の工夫による思考力・判断力の伸長

発表会に向けて自主的な練習を積み重ねることにより、グループで足りなかつたりリズム感を中心に繰り返し練習するなど、主体的に工夫する姿が見られるようになった。こうした行動は思考力・判断力の伸長に結びつくものと考えられる。小グループの中で生徒一人一人の役割をはっきりもたせ、各自が責任をもって自分の役割を果たす状況をつくり出したこと、練習の方法は最初に教師が指導したが、生徒は繰り返し練習していくうちに、自分たちに合った新しい練習方法を小グループの中で工夫できるようになったこと、発表会でいろいろなグループの様々な演奏を聴いて相互評価をすることにより、他グループのよさに気付き、自分たちの学びの過程を振り返ることができたことなどが主体的な活動を促した要因であると考えられる。

(3) 育成したい能力の明確化と指導の手だての工夫

追究の場面で育成したい能力として、「効果的に練習ができる方法を考える」といった具体的な姿を指導計画に位置付けたことにより、必要に応じて編曲し、楽譜を修正していくなど生徒一人一人の技能を生かすような支援をしたり、各パートのテープやテープレコーダーを用意し、その活用方法を助言したりするなどの具体的な指導の手だてを考え、指導している。その結果、生徒は他のパートを聴き、拍の流れや旋律と音の重なりなどを感じ取り、その特徴を生かして自分の表現に生かすようになった。育成したい能力を教師が意識し、学習活動や指導の工夫に結び付けていった一例である。

研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 過去の事例の分析から

西部山間・島しょ地区の過去の研究事例の分析から、これらの地区では地域素材や体験活動を取り入れて学習に対する関心・意欲を高め、地域のよさや自然のすばらしさに目を向けさせる教育活動が行われていることが分かった。しかし、「小規模・少人数を生かした学習指導の方法を具体的に述べた事例が少ない。」「実践の成果として思考力・判断力などの具体的な能力の向上を述べた事例が少ない。」という課題があることも把握することができた。

(2) 具体的な教育活動の在り方

過去の事例の分析から、西部山間・島しょ地区の具体的な教育活動の在り方として「小規模・少人数を生かして問題解決学習を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る」という考え方を示した。この考え方に基づいて、「問題把握の場面」「追究の場面」「まとめの場面」のそれぞれで重視すべき学習指導の視点をまとめた。

(3) 学習指導案の様式とそれを用いた構想例の作成

(2)に述べた考え方の具現化をめざし、学習指導案の形式を考え、様式を示した。作成した様式の考え方や特徴は、以下の通りである。

問題解決型の学習過程が明確になるようにした。

育成したい能力を具体的な児童・生徒の姿でとらえて記入する欄を設けた。

小規模・少人数を生かした学習活動・指導の工夫の欄を設けた。

また、この様式を用いて小規模・少人数を生かした学習指導の構想例を作成した。

(4) 調査委員による検証授業

考案した様式を用いて調査委員による授業を計画し、実施した。その結果、この指導案に育成したい能力を具体的な児童・生徒の姿として示したことによって、教師が、思考力・判断力・表現力などを育成するための具体的な支援・指導の方法を意識しやすくなることが分かった。

2 今後の課題

(1) 作成した構想例の有効性の検証とさらなる開発

本研究では、いくつかの学習指導の構想例を作成したが、授業による検証は十分ではない。今後、検証授業を行うとともに、より多くの構想例を開発していくことが必要である。

(2) 少人数を生かした指導方法の検討

この研究を通して、少人数だからこそ充実できる支援や指導があること、またその一方で単に少人数であることだけではそのよさを生かすことができないことなどが明らかとなった。このことを踏まえ、少人数を生かした指導方法の在り方についてさらに研究を深めていく必要がある。

《巻末資料》

資料1【分析に使用した研究紀要等】

島しょ教育のしおり(25~35集)	へき地・小規模校教育研究発表会紀要(2,3回)
西多摩・島しょの風(8~11年度)	校内研修の改善・充実を求めて(7,8年度)
第一期へき地教育研究報告書	多摩島しょ研究集會集録(29,30回)
平成12年度教育研究員研究報告書	多摩研へき地教育研究報告書(第~期)
教育課程の編成に関する研究報告書(元年度)	八丈町立榎立小学校研究紀要(8,9年度)
多摩研へき地教育実践事例集(10,11年度)	大島町立野増小学校研究紀要(9年度)
都立小笠原高校研究紀要(7,10,11年度)	青ヶ島村立青ヶ島小学校研究紀要(8年度)
八丈管内教育研究紀要(4,7年度)	三宅の教育(6年度)
都へき地教育研究発表会紀要(14,16,17,20,21,22回)	
へき地教育研究協力委員による研究事例集(7,8年度)	

資料2【分析カード例】

校種	小	学年	6	教科等名	算数	題材名	拡大図と縮図	事例が作成された年度	平成10年度	
地区名				学校名	小学校		全校児童生徒数	名	指導実施対象児童生徒数	19名
要素	1. 事例において生かされている学習環境						7. 児童生徒の変容		8. 成果と課題	
	豊かな教育資源		・ 三宅島の地図や模型を活用し、抽象的な概念をイメージ化できた。 * 児童の経験している実際の範囲と縮図内の範囲を比較しやすいのではないか。				・ 「測量」の学習で地域の測量士(児童に親しまれている方)を講師として招いたことで、関心・意欲が高まった。 ・ 三宅島の地図や模型を活用し、抽象的な概念をイメージ化できた。		・ 地域の中から学習課題を見つけていくことは、児童の関心を大きく高める成果があった。 ・ 地域で働く人々を講師として招いて学習できたので、地域で働く人々への理解が深まり、地域社会の一員としての自覚を高めることができた。 ・ 算数科においては、まだまだ地域教材を開発しきれない。学校全体の取り組みとしていくことも必要であろう。	
	地域や保護者との密接な関係		・ 地域で働く人々を講師として招いて学習している。(測量士が子どもたちのことをよく知っていて、児童も親しく接している。)							
	小規模・少人数		・ 測量機の操作については、その操作方法を児童全員が学習し、全員が操作できるように配慮する。							
	2. 学習環境の特性から生じている課題									
	3. 教材の工夫						・ 縮図の利用では、三宅島の地図や模型、校舎の設計図を活用し、抽象的な概念をイメージしやすくしている。			
	4. 学習活動の工夫						・ 測量機の操作においては、その操作方法を児童全員が学習し、全員が操作できるように配慮する。			
	5. 学習形態						一斉授業, 測量実習,			
6. その他の工夫						・ 算数と社会との関連をもたせるために、歴史の授業「伊能忠敬の地図」「測量士からの話」などを授業に取り入れている。				

使用した資料の名称 平成10年度 へき地教育研究実践事例集
地域の教育資源を生かした教育活動 一人一人のよさが生きる指導の工夫

分析者名:

《調査委員名簿》

大島町立北の山小学校教諭 山室 誠也 大島町立第二中学校教諭 北原 弘幸
 八丈町立三根小学校教諭 新井 裕 八丈町立富士中学校教諭 三浦 壮次
 奥多摩町立小河内小学校教諭 市川 哲也 奥多摩町立氷川中学校教諭 巴川 美奈子